生きがいしごとサポートセンター神戸西 NEXT

団塊世代の挑戦

NPOとコミュニティ・ビジネスによる

社会貢献という生き方

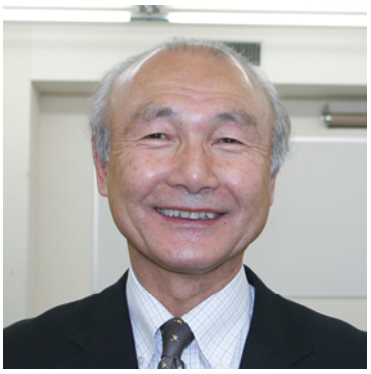
Contribution to the society

阪神北　CDC

神戸東　ワラビー

神戸西　NEXT

阪神南　UN


播磨東　wekiss

播磨西

巻頭記事　兵庫県知事　井戸敏三　3

第 1 章　「コミュニティ・ビジネスってなに？」　4

第 2 章　「生きがいしごとサポートセンターとは！」　8

ー各センター起業事例紹介ー

- 生きがいしごとサポートセンター神戸西　NEXT　9
- 生きがいしごとサポートセンター神戸東　ワラビー　13
- 生きがいしごとサポートセンター阪神北　CDC　16
- 生きがいしごとサポートセンター阪神南　UN　19
- 生きがいしごとサポートセンター播磨東　wekiss　22
- 生きがいしごとサポートセンター播磨西　25

第 3 章　NPO 法人の基礎知識

- NPO ってよく耳にするけど、いったい何 !?　28
- ここが違う !!NPO 法人　30
- NPO 法人と他法人の違い　31
- 法人と個人ではココが違う !!　32
- NPO 法人を立ち上げよう !!　33
- NPO 法人設立までの流れ　34
- 【データ】NPO 法人の地域別事業所数　36
- 【データ】NPO 法人の活動分野　37

第 4 章　「いきがい .cc」と私

ーNEXT が運営する地域 SNS ー

- 老後準備元年　ーコスモスさんー　38
- いきがい .cc との出会い　ーakada さんー　39

Non Profit Organization 特定非営利活動法人しゃらく

生きがいしごとサポートセンター神戸西 NEXT

発行：生きがいしごとサポートセンター神戸西 NEXT / 特定非営利活動法人しゃらく
発行人：小倉譲
編集：森田正純・岡田眞理（生きがいしごとサポートセンター神戸西 NEXT）
編集協力：須貝静（特定非営利活動法人しゃらく）
取材協力：生きがいしごとサポートセンター神戸東・阪神北・阪神南・播磨東・播磨西
イラスト：多田佳子 (Free 工房あお)
装丁：井上満（生きがいしごとサポートセンター神戸西 NEXT）

生きがいしごとサポートセンター神戸西 NEXT は、兵庫県の補助を受けて NPO 法人しゃらくが運営しています。

巻頭記事

兵庫県知事　井戸敏三

地域を舞台とした新たなチャレンジに期待

物質的な豊かさを実現した日本は今、改めて豊かさとは何かを問い、成長から成熟への構造変革を模索しています。

こうした中、戦後の発展とともに歩んできた「団塊の世代」が60歳の定年を迎えられることは一つの節目です。

昭和22年から24年生まれの団塊世代は約680万人。ボリュームがあるだけに、絶えず社会に大きな影響を与えてきました。受験戦争の世代。夢をもって都会へ出た世代。ニューファミリーなど新たな生活文化を生んだ世代。そして、石油ショックなどの荒波を乗り越え、日本経済を支えてきた世代でもあります。

団塊世代が定年を迎えるにあたり、技術の継承や福祉医療費の増大などを危惧する意見もあります。しかし、私は新しい地域、新しい社会をつくる大きなチャンスだと思っています。経済活動の第一線で活躍されてきた人が、活動の舞台を地域へと移されるからです。

人生80年、90年の時代です。団塊世代の皆さんは、これからの人生をどのように描かれているでしょうか。たっぷりとある時間の一部を、地域や社会への貢献活動に当てられてはどうでしょう。

そうした活動の一つに、コミュニティ・ビジネスがあります。地域に密着した課題を、地域の人たちが主体となって、ビジネス的手法を使って解決しようとするものです。併せて、コミュニティを再生し、地域を元気にしてくれる活動として期待されています。

県内各地において、福祉や子育て、教育、文化、まちの活性化など、地域のニーズに対応した取り組みが広がっています。ビジネス的な手法による活動には、技術技能に加え、営業や販売、経理、顧客対応、渉外などのノウハウが欠かせません。それだけに、団塊世代の皆さんが培ってこられた知識や技術、経験が生かせるとともに、新たな世界や仲間を広げるチャンスです。

兵庫県は、人と人のつながりやコミュニティの大切さを再認識した震災を契機として、コミュニティ・ビジネスを積極的に支援してきました。NPO等と連携して、神戸西をはじめ県下6か所に「生きがいしごとサポートセンター」を設けています。センターでは、コミュニティ・ビジネスを新たに始めようとする人の相談、スタッフの求人情報の提供などを行っています。ぜひ一度訪ねてみてください。

第2のステージを踏み出される皆さんが、地域づくりの力強い、頼れる担い手として、果敢にチャレンジされることを期待しています。

ともに力を合わせ、一人ひとりがいきいきと暮らす新しい兵庫、「元気で安全・安心な兵庫」をつくっていきましょう。

兵庫県知事

井戸敏三

第1章
特集

シニア・団塊向けコミュニティ・ビジネスの起業のススメ

コミュニティ・ビジネスってなに?

コミュニティ・ビジネスとは…
地域住民が地域の活性化や課題解決のために有償で自らが取り組んでいく事業のこと

生きがいしごとサポートセンター阪神北でセンター長をやっています!!森綾子です!!

コミュニティ・ビジネスの起業ー私の場合

私が起業したのは 10 年前、50 歳の時でした。今、60 歳になって思うことは起業して良かったということです。何が良かったかというと、社会貢献できる仕事・やりがいがあり、人に喜んでもらえることで給料をもらい、しかも 60 歳定年を廃止し、70 歳までと就業規則も変更したことで、まだまだ働けるからです。それよりも経営者には定年退職はありませんから、身体が続く限り生涯現役で仲間と仕事ができます。

今の職場は、中間支援組織といって、個々の団体の事業を支援するところです。具体的には NPO 法人の設立や運営支援、人材育成のための講座の開催や講演、就労マッチング、コミュニティ・ビジネスの起業支援やコンサルティングなどを行っています。

私は人の話を聞くのが好きなので、相談を受けることの多い今の仕事は天職だと思っています。

特に起業したいという相談は疲れを感じません。色々な人が自分でまちの課題を見つけ、解決するために事業を起こそうとする姿勢から元気をもらっているような気がします。

この仕事についてから、ストレスがなくなり、楽しくいきいきと働くことが出来ている幸せに心から感謝している毎日です。

皆さんに起業をおすすめするのはそんな個人的な理由だけではありませんが、まずは、コミュニティ・ビジネスで起業するとはどういうことかを知っていただき、これからの人生を楽しくいきいきと生きるひとつとして考えていただければと思います。

生きがいしごとサポートセンター事業

兵庫県は、2000 年 (平成 12 年) から阪神・淡路大震災の復興事業の一環として、「生きがいしごとサポートセンター」事業を始めました。

阪神・淡路大震災復興基金を活用した事業で、毎年、県の公募に NPO の中間支援組織が応募・審査・評価を受けた上で受託しているものです。

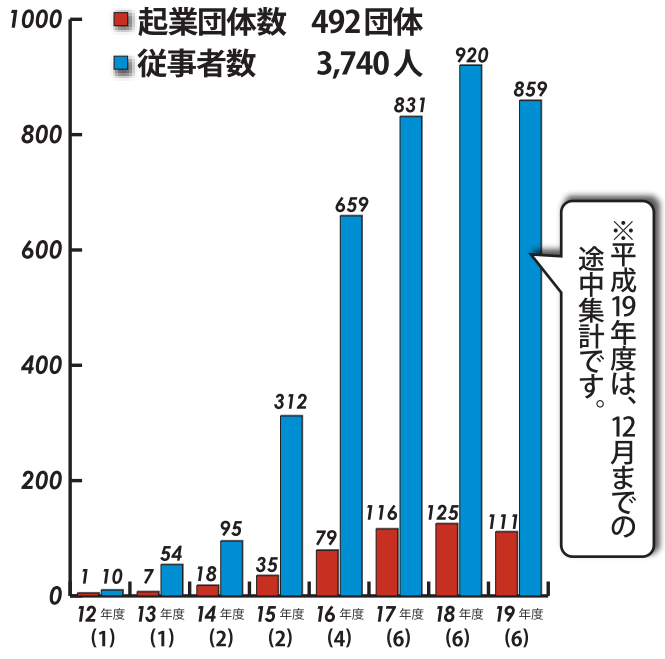
「生きがいしごとサポートセンター」事業の内容は、コミュニティ・ビジネスの起業支援と、就業希望者向け能力開発講座、情報提供などです。最も特徴的なのは、コミュニティ・ビジネス

のコンサルタント事業です。

（特）宝塚 NPO センターでは以前から NPO 法人設立の相談を受けていましたが、NPO 法人の意義が浸透するにしたがって、法人のあり方が変化してきました。地域の課題を解決する手法としてコミュニティ・ビジネスの概念が入り、無償のボランティア団体ではなく雇用が出来る法人として、地域に役立つビジネスを継続的に行いたいという相談が増えました。

まず、起業の相談に乗り、核になる人の思いや熱意をくみ取り、何をサポートすれば実現できるかを考え、足りない部分を補っていきます。例えば、足りないのは仲間なのか、資金なのか、それともスキルなのか等です。さらに、もっと専門的な相談内容になると、登録していただいているプロのコンサルタントが対応する、という仕組みをとっています。長い人で 3 年、早い人なら 1 ヶ月で法人申請の手続きを取得し、起業されます。

生きがいしごとサポートセンター起業実績



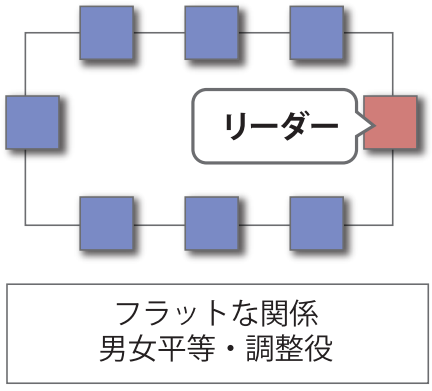
※( )はセンター設置数。現在は6つ。

コミュニティ・ビジネスの起業とは

コミュニティ・ビジネスは、働きがいや生きがいを作ります。個人の自己実現の場であり、志を同じくする仲間が集まり、地域社会の問題や課題を解決するために知恵を出し合い、事業を生み出します。

その事業を継続するためには、経済基盤を確立することが必要です。人や場所など地域の資源を活用します。働く人には賃金を保証し、地域の大切なものを継承していくための事業を行います。収益を上げるのは継続するための経費を捻出するためです。

NPOのリーダー像



まずは、地域を良くするという理念が第一義です。この点、収益そのものを求める一般のビジネスとは、スタート時点で区別されます。

また、企業や行政との大きな違いは、組織のあり方です。全体の方向性を示すリーダーはもちろん必要です。しかし、運営はトップダウンの指示系統ではなく、チームやプロジェクトを組んで事業を推し進めていきます。中間管理職のない、フラットな組織なのです。

働く人にも多くの能力が求められます。まずはパソコンです。各種の企画、報告書、助成金等申請書の作成業務には欠かせません。それに伴う企画力、文章作成能力も求められます。さらに、自分の仕事以外に組織全体を見るためにはコミュニケーション能力も必要です。

働く人たちは肩書きや給料で働いているのではありません。リーダーはメンバーが常にやりがい、生きがいを感じて仕事を進められるよう気配りする工夫が大切です。

コミュニティ・ビジネスは事業性を持ち、雇用を生み、地域経済を活性化することにより、まちを元気にするという役目を持っています。その観点から、まずは組織基盤を整えて経営や運営を考えていきます。

特定非営利活動法人とする場合は、事務所など拠点を設置します。組織として経営にかかわる理事による理事会を設立し、有償のスタッフの雇用体制を整えます。

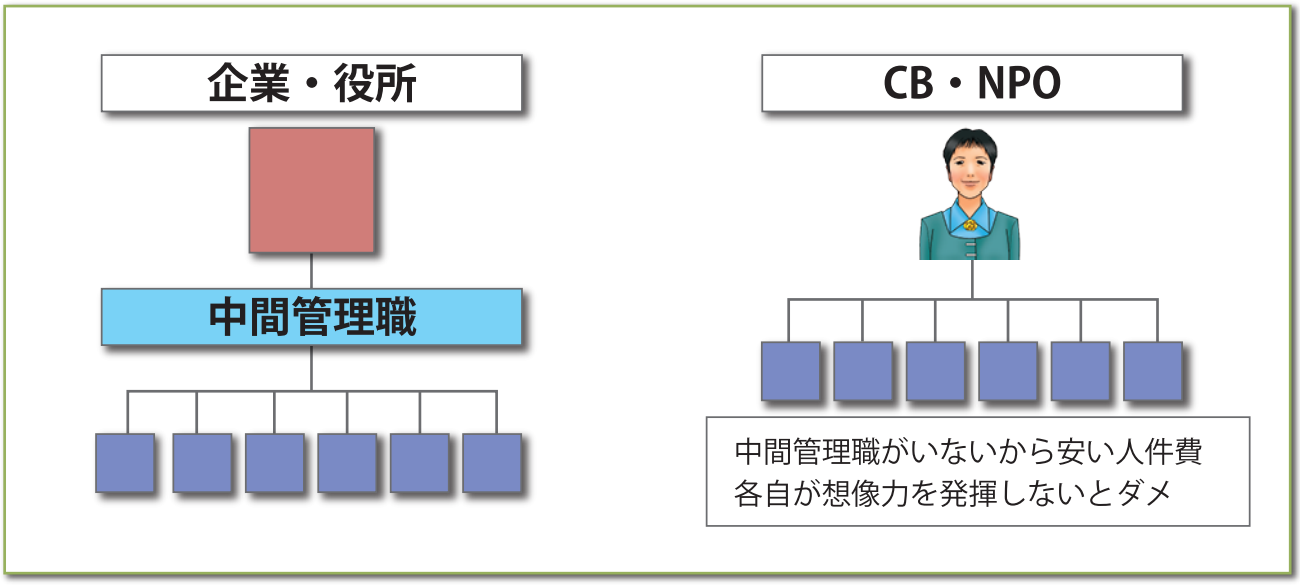
個人事業主として、事業を開始する場合もあります。

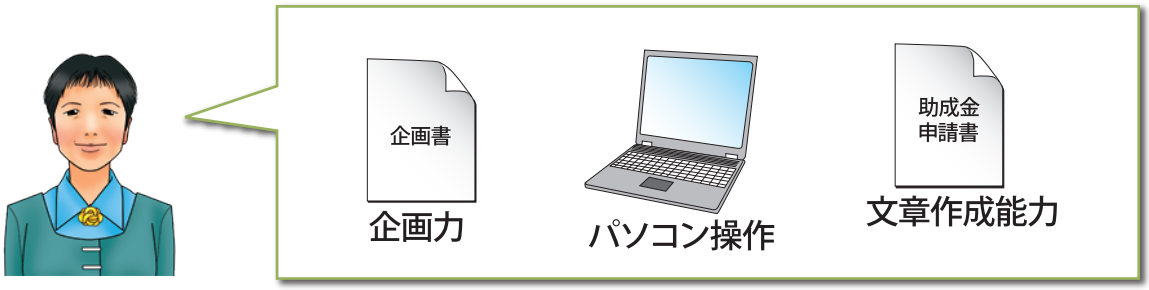
また、継続という点では仲間が居たほうが足りないところを補いながら展開できることもあるでしょう。最初は個人で起業し、節目で仲間を増やす方向も選択肢のひとつです。

自分の好きなことで起業するというのが原則です。しかし、その課題にニーズはあるのか、事業として成り立つのか、仲間が出来そうか、この点を考えてください。

課題は少数の人が対象でもかまいません。大きいビジネスを狙っているのではないのですから、自分がどうしてもしたいこと――困っている人を助けたいとか、まちづくりには必要だと思うことを書き出してみます。

企業・役所とNPOの組織の違い





コミュニティ・ビジネスで一番大事なのは仲間を大切にすること

地域デビューしたときの心構えは、まず地域では 1 年生であるという謙虚な気持ちを持つことです。そして、地域で活躍してきた女性たちに話を聞きましょう。企業の倫理とは違う考え方に気付くはずです。

企業で身に付けた企画力や事務能力、マネジメント能力は貴重です。しかし、昔の肩書きやプライドは捨てましょう。対等な人間関係や、コミュニケーション能力を持つようになれば、友達も増え、楽しい地域生活が待っています。

地域では経営と社会貢献、両面を行えるバランス能力が必要です。コミュニティ・ビジネスの事業は地域の課題解決のためや、まちが元気になるための事業ですから公益性があります。

でも、行政のように全額税金で賄われているわけではありませんから、無償とか、安い人件費で請け負うと継続できなくなります。といって、企業並みに価格を設定すると企業との競争に負けてしまいます。このバランスの取り方が難しく、企業社会からいくら優秀な経営者が起業しても、コミュニティ・ビジネスでは失敗するという例が後を絶ちません。これはボランタリーな精神が地域では求められることに起因します。

事業を継続するために収益を上げることは必要です。しかし、企業並みの最大利潤を求めず、理念実現のための信念を持ち、社会貢献する、という崇高な精神を忘れないで行いましょう。

決して今までの組織のやり方、自分の生き方を地域の人に押し付けないことがうまくいく秘訣です。

コミュニティ・ビジネスを起業するもうひとつの側面、それは最期までこの地域で尊厳をもって生活を送りたいからです。こんなサービスがあれば便利だとか、こんな施設が欲しいなど、市民が求めるサービスをコミュニティ・ビジネスで生み出していきます。

私は、私が寝たきりになったり、認知症になったときのために、まず福祉 NPO を立ち上げました。また、同じような起業をする人たちの応援をする中間支援が必要だと思い立ち現組織を起業しました。行政だけに依存するのではなく、自分達で出来ることは市民もする。元気なうちは働くという思いで、仲間と起業してみませんか？

これからも市民が当たり前のように事業を起こし、そこで働く人が増えることを願っています。

地域社会に溶け込む方法

- 肩書き・経歴は捨てよう
- 自慢話・知識のひけらかしはやめよう
- 命令しない・怒らない・怒鳴らない
- 頑張りすぎない
- 過去の業績は地域では通用しない
- 謙虚に一から教えてもらおう
- 女性とも対等な関係とコミュニケーションを

第2章 生きがいしごとサポートセンターとは！

生きがいしごとサポートセンターとは、コミュニティ・ビジネスや NPO など「生きがいある働き方」を望む方への起業・就業の支援とその後のフォローアップを目的に、兵庫県の「コミュニティ・ビジネス等生きがいしごと支援事業」の補助を受けて運営しています。

2007 年度現在、神戸東（神戸市東灘区）、神戸西（神戸市須磨区）、阪神北（宝塚市）、阪神南（尼崎市）、播磨東（明石市）、播磨西（姫路市）の兵庫県下6か所にある NPO 法人が生きがいしごとサポートセンターを運営しており、あらゆる世代や地域ニーズにきめ細かく対応しています。

基本的な事業として、NPO 法人などの起業・運営相談や生きがいあるしごとを紹介する無料職業紹介、その他インターネットや情報紙などを通しての情報提供などを行っています。

地域には、役に立つ起業をしたい、NPO法人を設立したい、生きがいあるしごとをしたい、ボランティアをしたいなど、様々なニーズがあります。その中で、運営母体である地域密着の NPO 法人だから持っている地域の生の情報を提供しながら、一人一人のニーズにできるだけ合わせる形で支援をさせていただきたいと考えています。

皆様、ぜひお近くの生きがいしごとサポートセンターに立ち寄ってみてください。

小倉譲 (神戸西 NEXT)

私たちがお手伝いさせていただきます!!

神戸東　ワラビー

〒658-0051
神戸市東灘区住吉本町 2-13-1
森田ビル 3F
TEL：078-841-0387
FAX：078-841-0312
http://www.cs-wallaby.com/

センター長　村上義弘（むらかみ よしひろ）

神戸西　NEXT

〒654-0071
神戸市須磨区須磨寺町 2-2-4
TEL：078-731-2251
FAX：078-735-0164
http://www.ikigai.cc/

センター長　小倉譲（おぐら ゆずる）

阪神北　CDC

〒665-0845
宝塚市栄町 2-1-1　ソリオ 1-3F
宝塚 NPO センター内
TEL：0797-87-4350
FAX：0797-87-4351
http://www.hnpo.net/n/cdc/

センター長　森綾子（もり あやこ）

阪神南　UN

〒660-0861
兵庫県尼崎市御園町 5
尼崎土井ビルディング 2F
TEL：06-6412-8448
FAX：06-6412-8444
http://ikisapo.npos.biz/

センター長　下枝万祐（しもえだ まゆ）

播磨東　wekiss

〒673-0005
兵庫県明石市小久保 120-55 サバービアシティ 21- A棟　102 号
TEL：078-926-0085
FAX：078-926-0084
http://www.wekiss.net/

センター長　白井忠知（しらい ただとも）

播磨西

〒670-0932
姫路市下寺町 43 姫路商工会議所新館 4 階
TEL：079-224-8900
FAX：079-224-1553
http://www.ikisapo-harima.com/

センター長　前川裕司（まえかわ ゆうじ）

生きがいしごとサポートセンター神戸西　NEXT

17人の団塊世代、新たなる挑戦

地元の町をよくしたい。有志の思いは１つだった。
「NPO 法人ネットワーク太子の風」設立準備委員会　丸尾淳さん

丸尾さんは 58 歳を迎えた頃、もうすぐ還暦を迎えることに特別の思いがあった。60歳というのは干支の五倍点、これを機に生まれ変わる、という思いである。

その思いは経験を活かして、地元地域へ目を向けることにつながった。これまで周囲の人たちにいろいろな形でお世話になってきた。これからはそのお返しをする時期じゃないかなと。

大手都市銀行から建設業界へと転進していた丸尾さん。社会の裏表がよく見えていた。次第にその豊かな社会経験を活かして色々なケースで悩む人々の解決の手立てにお役に立ちたい、と考えるようになっていた。

それにはどんな形が取れるか、何が出来るか？と思いながら、地域の問題点を探り、行政、商工会、シルバー人材センター等の公的機関を歩いた。現状のこの町がどういう問題点を抱えているのか、何が足りないのか、我々に何ができるという視点で動いた。

現役で仕事をしながら、生きがいしごとサポートセンター神戸東（ワラビー）、神戸西（NEXT）が主催する関連のセミナーに参加した。

最初のきっかけは 2007 年 1 月にワラビーが開催した講演会だった。「団塊世代の方地域に貢献しませんか、生き方を考えませんか」、という誘いで、田中尚輝さんの「新しい働き方を考える」話を聞いた。

NEXT も知った。「おかえり、お父さん」セミナー。これには参加できなかったが、同時に案内のあった「NPO 法人設立講座」に参加した。この一連のセミナーで方向性を見出した。

リタイアした後の人生、自分の意志で心身ともに健康に動けるのは 75 歳と想定する。あと 15 年しかない。行動をスタートさせた。賛同してくれる仲間が集まり始めた。これまでに培ってきたノウハウ、技術を最大限提供し、それぞれの知的サービスと役務サービスを通じ地域に貢献したいとの思いは一致していた。

掲げることは幅広い。年金、金融、生損保、交通事故のトラブル、不動産問題、食育問題（栄養）、健康、予防医療、がんの悩み、税金、相続、教育等々。各分野の専門家が 17 名集結した。

聖徳太子ゆかりの地で、「和の町 太子町」と誇れる住民のつながりを大切にした活動を目指し、地域の活性化と誇りある子供たちの育成に貢献したいと考えている。

活動の確立に向け、現在 NPO 法人の申請にも着手している。安心して相談できる場所の確保、各種サービスの継続的提供を行う為にその活動拠点として公的組織が必要と判断した。

法人化することにより、組織を発展、確立することができ、地域や行政からの要望にも対応可能になる。

目指すは住民、民間、行政がともに助け合う心温まる地域の実現。「住んで良かったと思えるまちづくり」なのだ。

森田正純 (神戸西 NEXT)

NPO法人ネットワーク太子の風　設立準備委員会

お問い合わせ
TEL：079-277-3011

生きがいしごとサポートセンター神戸西　NEXT

神戸からありがとうの想いを込めて……

NEXTの運営するサイト「いきがい.cc」の会員である風小僧こと柳川守さん。
柳川さんが自身の技術を活かしてはじめたことはwebを使った社会貢献という選択だった。

柳川さんは、57 歳の半ばで勤務形態が変ったことを契機に定年後の居場所作りを考え始めた。渓流釣りや江戸風俗の研究など、極めたい趣味もあり、退職後も退屈せずに過ごせる思いはあった。

しかし、柳川さんは、いきいきと生きがいの感じられる生活は、人をベースに社会とかかわり合っていてこそ出来ると考えていた。そのためには社会活動を継続していきたいという思いは強かった。

何をしたいか、うっすらと青写真は出来ていた。

「生きがいしごとサポートセンター神戸西NEXT」が運営するシニア向けSNS、「いきがい.cc」に参加した柳川さんが、昨年3月、事務所を訪れた。サイトの話題で盛り上がった。そして、制作中の新しいサイトの設計についても語った。その顔の輝きが忘れられない。

柳川さんは、元々チラシ、ポスター、パンフレットを扱う印刷会社のデザイン部に所属していた。IT 関連の発展に伴い、退職するまでの仕事はデザイン、映像、印刷、webを扱うものだった。

業務上、ハードは自宅にも備えている。会社の中だけで仕事をする世界ではなかった。この環境を使わない手はない。仕事ともなれば、手がけるものを選り好みすることは出来なかった。嫌なことでも手を付けなければならない。しかし、仕事から離れると、これまで培った自分の技術を好きなことだけに向けられる。

webサイトは、総合的に芸術の側面があるクロスメディア的なもの。デザインの才能、文章能力等、広く技量が高いほどいいものができる。この観点からまだまだ挑戦を続けたいと思っていた。

題材として何を選ぶか？その時点で蘇ってくるものがあった。あの阪神淡路大震災である。

震災報道でもっともクローズアップされていた長田区で被災した。あの目も当てられない状況の中で、当時の地域の人たちの行動に何度涙したことか。どんなに感動したことか。あの極限状態の中で人の温かさ、活力に驚嘆した。

震災直後、開店している商店を見るとモノを求めて暴動が起こるのではないかと思った自分が恥ずかしかった。

職場近くに消防車のたまり場があった。そこに救援のために他府県ナンバー車が押し寄せていることに心を打たれた。

この活力ある神戸、人の温もりのある神戸を取り上げようと決めるのに時間はかからなかった。

web を媒体として、神戸の魅力を紹介することで社会貢献したいと考えたのである。構想から1年4ヶ月で立ち上げたのが web サイト「まるっぽ！神戸」。

そのタイトルの横に添えられているメッセージ、「神戸からありがとうの想いを込めて」。柳川さんの熱い思いを端的に物語っている。

そのコンテンツの情報量に、見る人は異口同音に驚きの声を上げた。組織の制作ではない。柳川さん個人の手づくりでスタートしたのだ。

公開するまで暇を見つけては県内を飛び回った。夫人もカメラを手に行動を共にすることが多かった。それまでの生活とはがらりと変ったタイムスケジュール。まさに驚異の行動力だった。立ち上げて 4 ヶ月、その反響は大きい。全国からのアクセス数は 1 日平均 350 前後になっている。最高は 590 を数えた。

記事の提供等、援助を申し入れてくれる人も多い。旅行ガイドブックを手がけるプロのライターの協力、そして「まるっぽ！神戸」ファンも含む仲間と共に全国本の発刊も決まった。

しかし、柳川さんに気負いはない。「まるっぽ！神戸」を媒体としてセカンドライフを描くメディアごっこくらいの感覚で見守っていきたいという。収益面は重要視していない。応用はいつでも出来る。今はコミュニケーションサイトとしての特色を打ち出したいと考えている。

「まるっぽ！神戸」が声をかければいろいろな人が集まってくるコミュニケート作りができれば、と構想は広がる。何か生のイベント的なものを「まるっぽ！神戸」の旗印の下に開催する。あるいは神戸の街づくりの一環として「まるっぽ！神戸」の意見を聞きたいな、といわれるようになれば最高、と柳川さんは締めくくった。

森田正純 (神戸西 NEXT)

神戸の観光と地域イベント情報

まるっぽ！神戸

http://www.maruppo.com/

まるっぽ！神戸

http://www.maruppo.com/

神戸で遊びたいときには「まるっぽ！」を開けば間違いなし！

今回、ご紹介させていただいた「まるっぽ！神戸」是非一度アクセスしてみてください。

「まるっぽ！神戸」のトップページ。コンテンツの豊富さには驚かされます。

生きがいしごとサポートセンター神戸西　NEXT

皆様の起業を「お手伝い」させていただく

生きがいしごとサポートセンター神戸西NEXTでは、コミュニティ・ビジネスとしての起業・就業・運営相談、また、各種講座の企画・運営などを通じ、皆さんの活動のお手伝いをすることを主な事業としています。

私達のスタートは平成18年度の「シニア生きがいしごとサポートセンター」事業でした。また、事務所が須磨寺の参道沿いにあり、「お大師さん」にあたる毎月20日、21日には多くのシニア世代が訪れます。こんな環境もあって、シニア世代の方々とのコンタクトが深いことが私達の大きな特徴です。

相談業務では、当センター長による、「親切すぎる」対応が口コミによる広がりを見せています。中でも、NPO法人の起業相談では、相談者の思いを具現化するに留まらず、設立後もスムーズな運営が出来るよう、お手伝いすることを心がけています。また、定年退職後の活動の指針として、講座の開催や、情報誌の発行も行っています。「定年塾」「おかえり、お父さん」に続き、この「社会貢献という生き方」は、地域へ帰ってくる方を対象に、「いきいきと楽しく過ごせるセカンドライフとは」というスタンスで構成しています。

発刊にあたり、県下6ヶ所の生きがいしごとサポートセンターにご協力いただきました。各センターが支援し、定年退職後に起業した7件のケースをご紹介しています。

セカンドライフのスタートに立たれた方に地域活動について関心を持っていただき、「次への／NEXT」一歩を踏み出していただければ、これ以上の喜びはありません。

センター長紹介

小倉譲（生きがいしごとサポートセンター神戸西 NEXT）

生きがいしごとサポートセンター神戸西のセンター長として数々のNPO法人設立に携わる。親切丁寧をモットーに時に「やりすぎ」と言われる姿勢で日々相談に対応している。

生きがいしごとサポートセンター神戸西 NEXT

神戸市須磨区須磨寺町2丁目2-4
TEL：078-731-2251
FAX：078-735-0164
E-mail：next@ikigai.cc
URL　：http://www.ikigai.cc/

【開所時間】
火曜日～土曜日（10時～18時）
日・月・祝日はお休みです。
お電話・来所、大歓迎です！お気軽にご相談下さい!!

生きがいしごとサポートセンター神戸東　ワラビー

地域の困り事、引き受けます！

ゼロからのスタート！日曜大工のプロになろう！
暮らしのレスキュー車　ライフ・アシスト社　林信行さん

定年まで 2 年を残した昨年の 1 月、林さんは“自立” を意識して長年勤めた倉庫会社を退職した。

60 歳になってから “自立” すべく次の仕事を考えても気力が無くなる思いがしたからだ。具体的に何をしよう、という計画はなかった。ただ、年金制度からの “自立” をしなければ。思いはこの一点だった。

林さんの場合、年金の支給は 64 歳からだ。それまでの間、今日の状況下で年金体制はどうなるか不安だった。年金に頼らないセカンドライフ。それは自分の仕事は自分で創造する、という強い決意に満ちていた。

そのスタートは早い方がいい。何をするにしても、軌道に乗せるには 3、4 年は覚悟しなければいけないと考えていた。身近にその好例があった。

夫人が 14、5 年前、進学塾をオープンした。当初は夫婦でチラシをまくなど広報活動は大変だった。3 年ほどは細々とした運営だった。10 年を超え、やっと軌道に乗り、塾のための部屋を別に用意することも出来るようになった。口コミは時間がかかるが、しっかりした仕事をしていれば必ず報われるということを実感していたのである。

何をやろうか、と漠然とした中にも、人に喜ばれることをしたい思いは強かった。その根底に亡くなった母親の面影があった。

生前、神戸市内に 1 人住まいする母親の家で、換気扇の掃除など日曜大工的なことを手伝っていた。その母親を、福岡に単身赴任時に亡くした。もっと手伝ってあげたかった、という思いが強かったと言う。

その思いの延長上にヒントはあった。

高齢化が進むにつれ、女性の独居家庭は増えるだろう。日常生活で男手が必要とされることは多い。体験上、息子達家族がその手助けをするのはなかなか難しい。これだ！お年寄り世帯のお手伝い、日曜大工のプロになろう！

構想が固まるとその具体化に動いた。プロになるならもう少し技術的な幅を広げておきたい。訓練センターのようなものがないか、ネットで調べた。その着眼に相応しいものが見つかった。東京に訓練のための塾を備えた「生活応援のプロフェッショナル、町の便利屋さんファミリー」という組織だ。すぐに申込んだ。

研修がスタートする前に「生きがいしごとサポートセンター神戸東 (ワラビー)」のセミナーに参加した。親しくなった村上センター長に勧められるまま、配食サービス「あたふたクッキング」の高齢者宅への食事配送をボランティアで引き受けた。新たな出会いは貴重だ。

これが後の開業において得意先ルート開拓につながった。

開業にあたり、法人化も考えたが、急ぐことはない。とりあえず個人でスタートすれば、というアドバイスもあり方針は固まった。学生時代の友人が芦屋で西法寺という寺の住職をしていた。とりあえず拠点にすれば、と嬉しい話をもらった。

請負仕事のイメージは「困りごとなんでも引き受けます。暮らしの総合サービス店」。

いよいよ塾の講習開講である。約 1 ヶ月、大工仕事関係者、趣味で楽しむ人など、当初は 6、7 人でスタート。最終まで継続受講したのは 5 人だった。その中味は濃い。電気、水道、等の管理、襖、壁紙に触ったりする講習、網戸、ガラスを入れ替える実地訓練等、工作仕事は自信がついたと胸を張った。その後のフォローも親切で絶えず連絡しているという。費用は数十万円。決して安くはないが、初期投資として納得していると微笑む。

林さんの挑戦はもう一段上を見据えた。

電気関連の業務に基礎からの勉強が必要と感じ、本格的に独学し、第二種電気工事士免許を取得したのである。高校、大学で電気科を出ていたら筆記試験免除だったが、白紙状態の基礎からで、オームの法則から始めたというから驚きだ。さすがにこの歳で良くやったと、自分でも大満足の結果を得ている。

実際の活動は幅広い。

ベッド、タンス等の家具移動、エアコンの取り付け、水のトラブル、引越し手伝い、清掃全般、営繕リフォーム等々……。

基本的には単独の活動だが、ケースによっては 2 人必要な事もある。義兄に声をかけることも少なくない。

仕事は多岐を極めるが面白い。エアコンを修理に行ったことから話をしているうちに網戸が破れている、庭の手入れも長くしていない、と、ついでの話が多くなるのだ。ワラビールート、お寺関係の顧客がまた新たな人を紹介してくれる。顧客層は確実に増えている。

いつの間にか作業用の道具がワンボックスカーに一杯になった。

当初は、収入がほとんど道具を揃えることに消えていったが、ようやく利益が出るようになったそうだ。

「暮らしのレスキュー車、ライフ・アシスト社」と大きく表示している愛車は林さんの新たな挑戦を乗せ、心地よい走りを見せている。

森田正純 (神戸西 NEXT)

ライフ・アシスト社

お問い合わせ

TEL：078-843-7109

生きがいしごとサポートセンター神戸東　ワラビー

お客さまの気持ちに寄り添う相談を心がけています

事務所は JR 住吉駅すぐそば、ちょっとレトロなビルの 3 階。連日アットホームな雰囲気で 5 人の専門スタッフが多くの方からの相談をお受けしています。来訪者は 20 ～ 80 歳代までと幅広く、男女ほぼ同数の方がお見えになります。相談内容は、コミュニティ・ビジネスの起業・就業を主体としています。

スタッフのモットーは、来訪者の気持に寄り添うこと、相談してよかったと喜んでいただくことです。そのために求人票を多く集める、情報をこまめに伝えるなどの努力を重ねた結果、目ざましい成果が上がっています。

今年度上半期の面談者数、就業（雇用創出）とボランティアの成立数は、いずれも 1 ヵ月当たり 170 人、23 人、27 人。また、半年間で起業した団体は 21 に上ります。

ワラビーの強みの 1 つは、母体の NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸（CS 神戸）が、NPO やコミュニティ・ビジネスの設立・運営支援を重ねてきたことです。その経験を生かし、CS 神戸の機能をフルに活用、「生きがいしごと探し」への発信基地として、相談のほか講習会やセミナー、交流サロン、ほか多彩なサポートシステムを備えています。

ご希望の方には、月刊情報誌・週刊メルマガでタイムリーな情報をお届けしています。全貌はホームページでご覧いただけますが、電話などでもお気軽にお問い合わせ下さい。

センター長紹介

村上義弘 (生きがいしごとサポートセンター神戸東　ワラビー)

1943 年生まれ。阪神・淡路大震災でマンションが全壊。
再建活動への取り組みが地域参画のスタート。2004 年に㈱日本公文教育研究会から出向しセンター長に就任。
現在、同社非常勤顧問を兼任。シニアルネサンス財団認定シニアライフアドバイザー。

生きがいしごとサポートセンター
神戸東　ワラビー

〒658-0051
神戸市東灘区住吉本町 2-13-1
森田ビル 3F
TEL：078-841-0387
FAX：078-841-0312
URL：http://www.cs-wallaby.com/

【開所時間】
9：30 ～ 17：30(月曜日～土曜日)
※日・祝日休み

生きがいしごとサポートセンター阪神北　CDC

地域の子ども達のためにできることはないのだろうか？

地域の子ども達のために立ち上がったのは地域住民だった!!
NPO 法人すぎの子クラブ

植木の町として有名な宝塚市長尾地区。しかし、植木業の衰退と農地法の改正により、長尾地区の植木畑が宅地化された。そして起こったのはマンションの建設ラッシュ。住宅が急増し、多くの人が移り住んだ。当然、子ども達の数も急増していった。これにより地域には 1 つの課題が浮上した。子どもの急激な増加による受け入れ施設の不足である。市も保育所を増やすなどの対応をしたが、学童保育 (地域児童育成会) も次々と定員オーバー。結果、小学校入学と同時に自宅で 1 人になる子が増えるという事態が発生した。

この課題を受けて、2004 年 3 月、保護者と地域の議員、まちづくり協議会、市役所、などが連携して懇談することからスタートした。最初は「待機児童」の実態を知ることからはじまり、2005 年 3 月には行政、保護者、まちづくり協議会の 3 者で課題をひとつひとつ突合せ、相互理解の下、「すぎの子クラブ」が誕生した。この名前には、植木の町、長尾の杉の木のようにすくすく育って欲しいという願いがこめられている。

2005 年 7 月から市の委託事業としてシルバー人材センターが夏休み学童保育を実施。しかしニーズは増える一方で、行政主体の対応は予算難の色合いが濃くなってくる。市からは「まち協で受けてもらえるなら」の提案も出てきた。しかし、まち協では法人格がなく、児童やスタッフに事故等が起きた場合対応は不可能である。そこで 2006 年夏には NPO 法人化の構想が浮かび上がった。結局、市教育委員会の理解の下、まち協がバックの NPO 法人が誕生した。設立人は長尾地区のまちづくり協議会のメンバー、保護者代表、保育と労務の専門家を含めた 11 人。法人賛助会員には、宝塚市長や副市長も名を連ねている。拠点は長尾小学校内のプレハブ校舎、費用は助成金で学童保育を運営することになった。

生きがいしごとサポートセンター阪神北も、NPO 法人設立の申請書作成に全面的に協力した。多くの人の協力のもとできたのが NPO 法人すぎの子クラブなのである。

まち協は子育て支援やまちづくりを手弁当で毎日のしごととしてきた。しかし、責任ある学童保育をボランティアでやっていくことはできない。市のまちづくり推進室が時代に合う形として推進したのがコミュニティ・ビジネスだった。

「なぜ自分の意思で働いている母親のために子どもを預からないといけないのか」そんな声もあった。しかし、「NPO 法人が経営するコミュニティ・ビジネス」ということで落ち着いた。

「実際は、子どもと接するとそんな議論は皆が忘れちゃいましたけどね」すぎの子クラブの理事、古田時子さんは笑顔で語った。

「今度はいつくるの？」って声をかけられたときは涙が出るほど嬉しかった。

現在、登録しているスタッフは 31 名。うち 22 名が有償、9 名が無償で保育や裏方支援に携わっている。有償スタッフはシフトに入り、無償スタッフはいつ来ても OK というスタンスだ。

時給は兵庫県の最低賃金で、学童保育に関する人件費や事務費は宝塚市から出ている。

このような環境の中、メンバーは試行錯誤を繰り返しながらも「子ども達がほっとできる場所を作る」ことを目指して頑張っている。

スタッフリーダーを務める田村さんはこう語る。「子ども達にはすぎの子クラブでしかできないことを体験してもらいたい。一人一人との関わりもしっかりとできるので、子ども達の小さな変化・成長にも気付けます。温かい家庭的な雰囲気の中にも、集団生活の中での基本的なルール・協調性・思いやりの心を育んで欲しいです」。

利用者側の子ども達にとって一番の遊び相手は男性ボランティアのおじ様たちだ。子ども達の人なつっこさには驚かされた。「せっちゃん」「つねじい」と愛称をつけて仲良しこよし。おじ様たちがくると肩に乗り背中に乗り足をからませ、子ども達が群がっていく。

「男性たちは体を張って遊んでくれます。我先に遊んで欲しくて子ども達は大歓声で迎えるのですよ」と福祉部会長として関わった立川さん。男性ボランティアの堀江さんこと「せっちゃん」はこう語る。「子ども達が『せっちゃん、今度いつ来てくれる？』と声をかけてくれ、涙が出るほど嬉しかった」

立川さんはこれからの夢についてこう語る。

「卒業生に『ここで育ってよかったね』と思ってもらえる、すぎの子だからこそできる柔軟な学童保育をしていきたい。NPO なので自由度が高いのが強みです。近くの NPO と連携して野菜の収穫や夏祭りへの参加など楽しい提案がいっぱいです」

現在、すぎの子クラブに通っている子どもは22名。保護者会では、「仕事が続けられないかと思っていたのに、本当にありがたいです」という声もあがっている。地域で起こった課題を地域の人々の力で解決する。地域住民の心に、社会貢献という生き方が自然発生的に起こった長尾地区から目が離せない。

井上満 (神戸西 NEXT)

NPO 法人　長尾すぎの子クラブ

お問い合わせ

宝塚市社会福祉協議会長尾地区センター内
TEL：0797-80-0786

生きがいしごとサポートセンター阪神北　CDC

親切、丁寧に顔の見える相談を

NPO 法人設立支援と法人化後の運営相談については、相談者の立場に立った親切、丁寧な対応をモットーとしています。

法人設立認証申請・設立登記申請等の書類作成については、書き方だけを説明し、あとは添削するだけというのではなく、相談者と協働で作成するという姿勢に徹しています。特に、定款の目的、事業名、設立趣旨書の文言については、完成形に近づけるよう手を加えています。

NPO 法人設立全般の手順をマニュアル化・フロッピー（CD）化し、誰もが簡単に設立認証申請書類を作成できるようにするとともに、設立総会における議長のシナリオと事務局が行う提案理由説明のシナリオが入っているため、設立総会の議事運営をスムーズに進めることができます。

NPO 法人設立認証申請、設立登記申請、定款変更、理事変更等の書類の作成に際しては、完成度の高い申請書類の作成を心がけています。

設立総会が終わり、設立認証申請書類が整うと県の参画協働課へ電話し、審査日時を予約します。当日、申請者と同席して審査の現場に学び、支援。設立認証申請書が受理されますと、登記申請書類の作成に取り掛かります。設立登記申請書、登記用紙（OCR）、印鑑届書、財産目録、委任状は、当方で作成します。

無料職業紹介事業については、地域の事業所を中心に、多様なお仕事を紹介しています。求人側の求める人材像、求職側の希望条件・興味・経験などを丁寧にお聞きし、双方満足いただけるマッチングを目指して、顔の見える紹介を心がけています。

センター長紹介

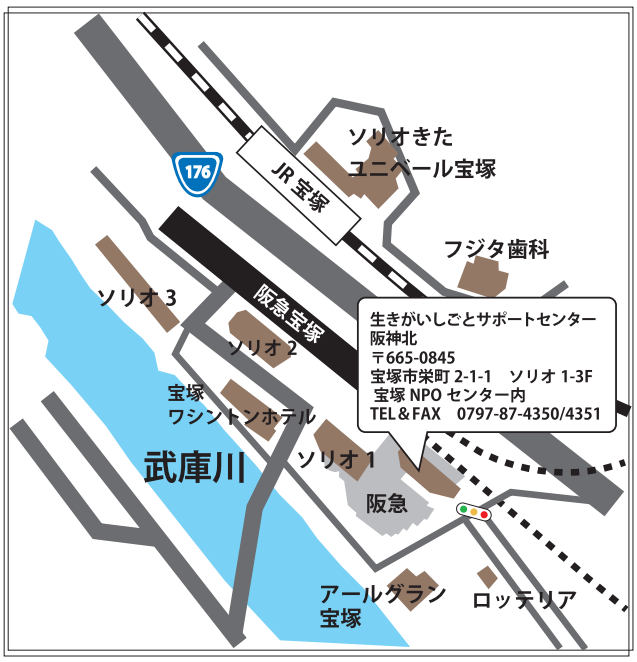
森綾子（生きがいしごとサポートセンター阪神北　CDC）

震災を教訓に 1998（平成 10）年、宝塚 NPO センターを設立。食べていける NPO をめざしコミュニティ・ビジネスに出会う。団塊の世代。ライフワークはヨーガ。

生きがいしごとサポートセンター
阪神北　CDC

〒665-0845
宝塚市栄町 2-1-1　ソリオ 1-3F
TEL：0797-87-4350
FAX：0797-87-4351
URL：http://www.hnpo.net/n/cdc/

開所時間
月曜日～土曜日（9 時 ～18時）
日・祝日はお休みです。
お電話・来所、大歓迎です！お気軽にご相談下さい !!



生きがいしごとサポートセンター阪神南　UN

体が不自由でもお洒落をしたい

技術と経験と想いを込めて
NPO 法人　訪問ヘアカットサービスあかり　藤井正子さん

美容専門学校を卒業した後、藤井さんは 20 歳で京都市内に美容室を持った。懸命に働くこと 40 年、2002 年、還暦を契機に引退、閉店した。その後、娘家族が県外から引っ越してきた西宮市に転居することになる。

西宮での新しい暮らしが落ち着いた頃、まだまだ元気、孫の子守りだけではなく、何か働く術はないものかと考え始めた。あれこれ見聞きし、考えたが、納得できるものが見つからない。

2004 年の 12 月、新聞記事で"訪問美容"をしている NPO 法人の記事を見つけた。感銘を受けた。もっと詳しく知りたくなり、新聞記者に連絡を取った。紹介を得て、西宮を拠点とする当人を訪ね、色々話を聞いた。面白い内容だった。これならできるだろうな、という自信めいたものもあった。これが後にモデルとなって蘇ってくる。

そんな類の記事にも注目しながら、セミナーにも参加するようになった。

大きな転機となったのは、西宮市大学交流センターでの「起業家支援セミナー」だった。そのプログラムに個人面談タイムが設けられていた。申し込み制で、多数の場合は抽選、12 名限定となっていた。

幸いにこの権利を得ていたことで展望が開くことになる。その席について応対してくれたのが「生きがいしごとサポートセンター阪神南 UN」だった。これを機に、「生きがいしごとサポートセンター阪神南」との連携がスタートした。

この時点では、何をしたいか、具体的な絵が描けていたわけではなかった。その後、「生きサポ阪神南」と何度かの話し合いを持つ中で、これまでの経験を活かさない手はない、という方向に焦点は絞られた。先に見学させてもらった" 訪問美容"、これを実現しようとリードされた。

美容室を経営していた頃にも、高齢の顧客は多かった。中には、外出が困難だから美容室に行くのが面倒だ、という相談を受け、休日に客の自宅へ出向いた経験もあった。当時、髪をセットしながら世間話、身内の愚痴などを共有して喜んでもらえたことも蘇ってくる。

これからの社会はますます高齢化が進む。体が不自由でヘアカットを諦めている人は多いはずだ。そんな人たちも、お洒落を楽しみたい、美しくありたい、地域社会との連携を持ちたい、と望んでいるに違いない。そんな人たちに、これまで培ってきた技術で社会に貢献できるなら、こんなに嬉しいことはない。藤井さんの胸に熱く広がるものがあった。

社会貢献という視点に立って NPO 法人を立ち上げることにした。2006 年 3 月のことである。NPO 法人設立準備期間と併行して広報活動もスタートさせた。ともかく顧客を得なければならない。

この広報活動が驚く。藤井さん母娘の熱意が伝わってくる。娘がパソコンで作成した A5 版サイズのチラシを万単位で刷り上げたという。

それを武庫川団地周辺の住居にポスティング活動を繰り広げた。このポスティングにも藤井さんのこだわりがあった。普通、団地、マンションのポスティングは各棟の集中郵便受けに配布する。藤井さんはこれまでの経験上、集中郵便受けの一枚チラシは見向きもせずに捨てられることが多いと感じていた。藤井さんは家族の協力も得て、1 ヶ月以上かけて各棟の階段を使い、各戸のドアの郵便受け口に配布した。

これなら手に取って目を通してくれる割合は高い、と信じていた。武庫川団地はマンモス団地だ。その周辺も含めて、全戸駆けまわるには相当な気力、体力が要る。しかし、狙いは当たった。後日、チラシを見て、という問い合わせが相次いでいる。

西宮市役所にも働きかけた。仕事内容を伝え、活動の場のヒントを得た。介護関係の施設があることを教えられた。そして、その施設には市役所から紹介してもらえるようにもなった。ますますやりがいを感じた。

第 1 号の顧客はこの働きかけの成果だった。

こうして 2006 年 7 月、NPO 法人「訪問ヘアカットサービスあかり」が誕生した。結婚前、京都の店で美容師として働いていた娘もメンバーに加わった。

立ち上げて半年後、2007 年 1 月 3 日に毎日新聞の「輝け！セカンドライフ」というシリーズコラムに取り上げられた。この反響も大きい。仕事を手伝いたいという人も現れている。

現在、忙しい日は 4 軒ほど回る。この場合、顧客が集中していることは少なく、武庫川団地、西宮北口、芦屋など移動するケースも多い。また、体の不自由な方が多く、時間もかかる。1 人ではこの程度が限度と考えている。

これからは施設も回りたい。施設はまとめて対応できる。現在 3 名のメンバーが活動に参加している。今後、結婚や子育てなどで現場を離れた美容師にこの活動を呼びかけ、組織を充実させていきたいと思う。藤井さんの引退後は娘が継承してくれる組織にしたい。

2 月にはリニューアルしたチラシでもう 1 度ポスティング活動する予定だ。

藤井さんの “いきいきセカンドライフ” はすっかり軌道に乗った。

森田正純 (神戸西 NEXT)

NPO 法人　訪問ヘアカットサービスあかり

在宅料金

カット	2,500 円
顔そり	800 円
シャンプー	600 円

お問い合わせ

TEL：0798-78-6031(藤井)

生きがいしごとサポートセンター阪神南　UN

尼崎から発信する「生きがいしごと」

2005 年、阪神尼崎駅前に設置されてから今年度 3 年目を迎えます。当センターでは、「様々な年齢層の就業に直接結びつく就労機会の創出」「生きがい・やりがいの雇用を生み出す起業の支援」をコンセプトに相談、講座、情報提供を中心に起業、就業の支援をしています。

起業相談では元日本 NPO 学会会長の今田忠氏を専門相談員として配置し、NPO としての役割から団体運営に関わるマネジメントの手法まで多分野にわたる専門的な相談に対応できるセンターを目指しています。就業相談では、シニア層・女性・若者層の就業希望者を対象に、一般的な就業支援を行っています。

阪神南地域の求職相談で特徴的なのは、子育てしながら働きたいと思っている再就職希望の女性が多いことです。

そこで当センターでは、子育てと仕事、仕事と家庭との両立を経験者したキャリアアドバイザーを配置し、女性に対するサポートに力をいれています。

また、少子高齢化が進んでいる地域で、シニアの「生きがい」作りにも積極的に取り組んでいます。19 年度は、シニアが先生になり地域で活動する「市民教授」事業を始めました。
その他、地域での活躍が大変期待されている団塊世代の方むけの事業として、当センターでは、地域と個人、双方の情報発信、受信のかけ橋となれるよう一般参加型の「自悠時間満喫講座」も今年度より始まっています。

今この冊子を手にとり、自分の将来や生きがいについて考えているあなた、いっしょに考えませんか、これからのこと…

センター長紹介

下枝万祐 (生きがいしごとサポートセンター阪神南　UN)

2004 年から NPO シンフォニーのボランティアとして、SOHO の立ち上げや、イベント事業支援。2005 年から生きがいしごとサポートセンター職員として、起業・就職支援を担当。
特技：子ども、シニアとすぐに仲良くなれる
性質：キャリアウーマンと言うより典型的な「尼のおばちゃん」

生きがいしごとサポートセンター
阪神南　UN

〒660-0861
兵庫県尼崎市御園町 5
尼崎土井ビルディング　2F
TEL：06-6412-8448
FAX：06-6412-8444
URL：http://ikisapo.npos.biz

【開所時間】
9：00 ～ 18：00（火曜日～金曜日）
9：00 ～ 17：00（土曜日 ）

生きがいしごとサポートセンター播磨東　wekiss

欠陥住宅との戦い

会社の倒産で知った建築業界の姿

NPO 法人　欠陥住宅を撲滅する会　市成照一さん

48歳の時だった。市成さんに思わぬ事態が発生した。会社の倒産である。

学校卒業以来 25 年ほど住宅会社で設計、確認申請、工事管理に携わってきた。まだまだ働き盛り、すぐに求職活動を始めた。しかし、ハローワークでマッチする求人がなかなか見つからなかった。

独立を余儀なくされた市成さんは建築設計事務所を立ち上げた。WING 建築設計事務所。2002 年 5 月のことだった。

初めての仕事は、ある不動産会社の下請け業務だ。建築確認申請を主な担当業務としていたところ、それに付随する項目に関して、さまざまな現実を目の当たりにする。

正義感に溢れる市成さんは、経営者に指摘した。

「そんなケツの青いことを言ってどうする。この業界では当たり前のことじゃないか」

と、取り合ってくれない。これまで 25年勤めていた会社の枠からはずれ、ひとり歩きして見る業界の実態に愕然とした。

さらに、2002 年 10 月、勤めていた会社の協力工務店の紹介で某ハウスメーカーが建てた住宅でトラブルがあり、相談を受けた。ノイローゼに陥ったという住宅購入者当人からいろいろな被害を聞き、初めて欠陥住宅の調査をした。

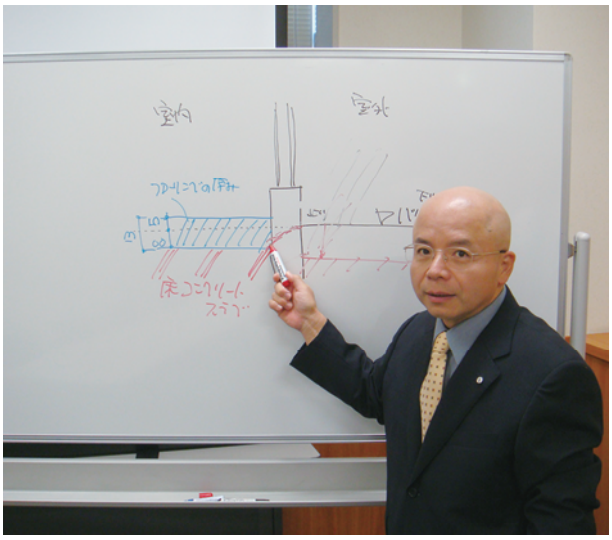
これが開業して1年も経たない期間の出来事だった。業界への疑問が日ごと大きくなるなか、業界からの決別さえ考えた。しかし、生計を立てねばならない。気を取り直して不動産会社の仕事を 1 年間は継続した。しかし、その後も納得いかないケースが続き、2003 年 4 月にその不動産会社との契約を打ち切った。

その後は、住宅業界からの下請けではなく直接消費者に何か働きかけたいと思った。欠陥住宅を撲滅する為の活動イメージが湧き上がった。

元々サラリーマンだった 2000 年ごろ、「住宅フォーラム 21」という、21 世紀に相応しい住まい作りを考える研究会を立ち上げていた。サラリーマンをしながらそんな市民活動をしていたのである。定年退職後はこの方面を主軸にして活動するつもりでいた。その目標を視野に 10 年、12 年かけて準備をしていくつもりだった。それがまさか、こんなに早く取り組む事態になるとは！

「住宅フォーラム 21」という活動は、21 世紀にふさわしい住まい造りの研究会だった。しかし、2002 年のふたつの出来事のように、これからやることは欠陥住宅を撲滅するという、業界の根っこの部分に触れる。業界の体質、仕組みを変えていく。それを実現しない限り、いくら新しいデザイン、新しい手法のモノが出来ても根っこが腐っていてはどうしようもないのではという方向性を持つ。

この活動をやるということは、住宅業界を敵に回すことに繋がる。いろいろな人に相談もした。そんなことは行政に任せればいい。



家庭的にまだまだ大変な時に夢のようなというか、まるで青二才。何を考えているかと叱られもした。

しかし、思い込むと動かないとすまない性格だ。家族にはイバラの道に巻き込むことになるかも、という思いもあった。諸々の思いを胸に秘め、2004 年の 2 月、50 歳の誕生日に頭を丸めた。嘘をつかない建築士を目指すことを自分に誓った。

生計を立てる手段としては、新規に住宅を購入する人に対し、該当物件を調査するコンサルタント業務をスタートさせた。欠陥住宅撲滅運動と両輪の活動である。

さて、こんな建築士が居ることを世間に知ってもらうためにはどうすればいいか？

2004 年 5 月、DREAM GATE(ドリームゲート) という創業する人を支援するサイトを見つけた。大阪で交流会があることを知り、参加してみた。その会場でのアピールで人脈は広がった。地元明石の情報も入手できた。

次には自分の思いを伝えるために講演、セミナーが有効かなと考えた。2004 年 9 月に明石で欠陥住宅撲滅セミナーの開催にこぎつけた。それを契機に明石市が運営する「ゆうゆう塾」にこのテーマで応募、採用された。

それは 2004 年 11 月から 5 ヶ月間、明石市から講演料を得ながらアピールすることに繋がった。以来、本格的な講演活動が始まった。

主張に賛同してくれる人が集まり始めた。そこで、2006 年 10 月に、「生きがいしごとサポートセンター播磨東」を訪れ、NPO 法人を立ち上げることになった。秋元さんが熱心に相談に乗ってくれた。初めは仲間が増えても一緒にやっていく自信がなかった。設計屋はひとりで行動することが多い。人と協力して何かやるということが苦手だった。しかし、自分ひとりでは何も出来ないことを悟り、仲間作りを強化しようと腹をくくった結果だった。明石市の市民活動のグループにも参加した。

NPO 法人の役割としては、この住宅業界の実態を消費者の方に知ってほしい。加えて、欠陥住宅を購入しないためにどうしたらいいのかという講演、さらに悪質な住宅リフォームの詐欺に遭わないためにはどうすればいいのか、といった啓蒙活動を使命としたい。講演、個別相談、テーマを決めて議論するフォーラム、この 3 つが活動の中心だ。

家族の生活を守る建築設計事務所 WING と消費者を守る NPO 法人活動と 2 本立てでそれぞれの役割を果たしていく。もうすぐ 54 歳になる市成さんの決意は固い。

森田正純 (神戸西 NEXT)

NPO 法人　欠陥住宅を撲滅する会

お問い合わせ

WING 建築設計事務所

TEL：078-904-8087

URL：http://www.kj-bokumetsu.com/

生きがいしごとサポートセンター播磨東　wekiss

明石で生きがい作りのお手伝い

当センターで多い求職者は「高齢者の職探し」と「若い母親の短時間勤務」ですが、最近の若者の「コミュニケーションが出来ない人」「就職にスタートが切れない人」が増えている傾向があります。

私の役割は、「年齢で判断しない」「勤務時間の融通」「個人完結型の仕事がないですか」を採用側に依頼し、求職者には「最初から適職（天職）はない、創り上げていくもの」と話すことです。求職者の「人を知り」採用企業の「採用ニーズを知る」ことを大切にしています。

ライフプランセミナーは、定年前の方に、「定年後にボランティアなどで地域活動をしてもらう」ことを目的にしたものです。東・北播磨地区の企業をリストアップし、セミナーの案内をし、関心度合いで訪問し、開催を呼びかける手順をとったのですが、「個人情報保護法との関係や組合の了解を得る必要がある」「セミナーを依頼している団体（経営者協会など）がある」「生きがい中心でなく年金を中心のテーマにして欲しい」などの理由で苦戦していますが、2月18日に30名参加のセミナーが決定し、ほっと一安心と同時に、次の開催企業の開拓を目指しております。

団塊世代のアンケートでは、企業で勤務中の50歳以上の方を対象にした「退職後の計画・生きがい作り」に関する調査をしました。

数多くの企業を訪問し、アンケートをお願いし、回収を図ります。アンケート集計・分析・結果のまとめを行い、協力企業にお返しして「企業の福利厚生にお役に立てて貰うこと」を目的としています。

センター長紹介

白井忠知（生きがいしごとサポートセンター播磨東　wekiss）

私は、現在65歳で、元気さだけが取柄で、主に企業関係と就職関係を担当して、明石の町を自転車（ママチャリ）をブッ飛ばして走り回っております。

生きがいしごとサポートセンター播磨東　wekiss

〒673-0005
兵庫県明石市小久保120-55
サバービアシティ21－A棟　102号
TEL：078-926-0085
FAX：078-926-0084
URL：http://www.wekiss.net/

【開所時間】
10：00～19：00（月曜日～土曜日）
※日・木・祝日休み

JR西明石駅西口（新幹線側）より西へ徒歩3分

生きがいしごとサポートセンター播磨西

生きがいしごと「フットケア」との出会い

キッカケは母の怪我だった。
フットケア足家　大谷和代さん

学校を卒業以来 30 数年、大谷さんは看護職として大阪で働いた。定年 5 年前になり、母親のことも気になって兵庫県の実家に移り住んだ。3 年程大阪まで通勤する生活を続けるうちに、ゆくゆくはこの居住地域でこれまでのような組織の中で働くのではなく、個人として社会とかかわり合いながら今までの経験、知識も活かせる活動をしたいと考えるようになった。

そんな時にフットケアと出合った。フットケアとは足の手入れのことである。

キッカケは母親の大腿骨の頸部骨折だった。

入院加療の後、母親の片脚が 1.5cm ほど短くなった。そのために靴も調整した。しかし、その後母親は自分で爪が切れないと言いだした。見ると、片脚が短くなったためか、体重のかかり方、足の使い方が違うように感じた。歩き方が不自然になったためか、親指の爪が L 字形に曲がって皮膚に食い込んできていた。痛みも訴えていた。

大谷さんは看護職でありながら、この爪をどう切ればいいのかわからなかった。大学病院のフットケア外来を知る看護職の友人に相談し、用材を送ってもらった。その時に大谷さんは身近な母親のそんな症状に気づいていなかったこと、適切な対応技術をもっていなかったことにショックを受けた。

自分の手で誰かに何かを提供することで役に立てる領域を探していた大谷さんにこのことがヒントとなった。

まず母の足のケアをちゃんとしたい。そして、そんな目で駅のホームなどに行き来する人を観察してみた。身体を揺らせて歩いている人がいる。

おじいさんおばあさんなどの立ち姿も不安定だ。この人たちの足はかなりひどいことになっているかもしれないと感じた。足の裏がバリバリに硬くなって循環が悪くなっているかもしれない。爪がかなり圧迫されて悲鳴をあげているに違いない……。

そんな思いで眼を向けると足のケアを必要とする人は沢山いるのではないかと確信した。フットケア、教えてくれる場所は在るのか？と探した。それが 2 年半くらい前のことだった。探し当てたのが日本フットケア協会。

あらゆる病気の原因となる「血の道症」（血の滞り）を改善させることをケア技術の基本としているという。人間の身体は血液で養われている。栄養も酸素も血液の道をキチンと整えてやることが体の細胞の健康に繋がり、それによって健康を保つ。ひとりひとり、血の道を整えることでそれぞれの人の体に合った血液循環を調整することが重要という考え方だ。

富山に居住する室谷良子先生の生家に伝わる技法という。足浴で足を温め、マッサージし、足の裏の角質を落とし、爪を切る、という 4 つ

の項目で組み立てる。脚だけでなく、全身の血液の循環をよくすることにより、効果は多方面に及ぶ。

やりだすと面白い。大谷さんは休日を利用して芦屋のスクールに通った。

講義はマンツーマンを基本とし、徹底した技術指導をしてくれる。手技の取得を重点に、受講生が無理なく仕事ができるよう進めてくれる。さらに、サロン開業までのアドバイスも加わる。

日本フットケア協会は任意団体だが、最近はフットケアの効果を検証するという観点から医療・看護の現場との連携も始まっている。

定年 2 年前に地元に職を移し、その間にサロン開業の技術認定を受けた大谷さんは、1 年前からフットケア開業に備えて情報を集める中で、あるチラシを眼にして生きがいしごとサポートセンター播磨西を訪ねた。デイサービス施設の紹介を受けたが、施設側には看護師としての業務の中でフットケアをするのは歓迎だが、フットケアだけでは受け入れが難しいという経営上の現実があった。

また、他方からある医院の紹介があった。フットケアに関心のある施設だった。胸の中で「内科」とか「外科」などを標榜する医院でできればいいなと思っていたところに願ってもない紹介だった。二つ返事で受けて11月スタートを目指していた。

ところがここで思わぬ壁にぶつかった。病院、診療所では医療法に抵触することが判明した。フットケアは保険診療で認められているものではない。ボランティアならともかく、有料では保険診療施設内で併設は出来ないのだ。さりとて材料費もかかる。ボランティアというわけにはいかない。断念するしかなかった。

当面、出かけて行くことを目指す。要請があればそこに出かけていく。グループで受けてくれるとありがたい。

大谷さんへのインタビュー当日、その予定が組まれていた。

「生きがいしごとサポートセンター播磨西」に出入りしていた NPO 法人「愛ランド」。元々障がい者も含むパソコン教室からスタートしたが、揖保川の土手下にある空間は障がい者支援のパン工場も併せ持つ地域の人々の憩いの場となっている。理事長の武内美佳さんがフットケアに関心を持っていた。快く部屋を提供してくれることになっていた。

姫路から車で 40分、たつの市の田園風景の中にある施設は若いスタッフが数人、元気な声で迎えてくれた。雰囲気は最高だ。大谷さんの表情が緩む。

予約していた女性と男性、2 名が約30分ずつケアを受けた。大谷さんが手を当てるのは膝から下。指のマッサージの丁寧さにケアの本質を見た思いがした。爪切りも繊細だ。ケアを受けた方の心地よさそうな表情がその効果を物語っていた。当施設に出入りする人たちに啓蒙する余地はある、と武内さんの支援もあり、定期的訪問先の第 1 号施設が決まった。

当面、大谷さんは赤字さえ出さなければいいという考えでいる。それより、フットケアをこの地域でもっと拡げたいという強い希望がある。3 月までには小さくてもどこか拠点を見つけたい。そして、介護施設や病院のスタッフにもフットケアを教える活動をしたい。そうすることにより、地域でフットケアができる施設を増やすことが夢だ。将来は仲間を作って勉強会などに発展させたい。そのためにフットケアを教える資格認定を取得するコースを受講中だ。

あと 10年は社会貢献をしたい。大谷さんの挑戦はこれからが本番だ。

森田正純 (神戸西 NEXT)

フットケア足家

料金

足浴	500 円
爪きり & ケア	3,000 円

お問い合わせ

TEL：079-232-3271(フットケア足家)

生きがいしごとサポートセンター播磨西

企業との連携、播磨西地域を元気にしていきます！

生きがいしごとサポートセンター播磨西は、平成 16 年 6 月に設置されました。NPO 法人コムサロン 21 が運営していますが、当 NPO は、平成 3 年に地域・会社・個人の活性化を目指した異業種交流サロンとして発足しました。

地域のためにひらめいたり、貢献したいと考えることがあっても、なかなか行動に移すことは難しいです。そのような思いを実現するお手伝いをすることを目的としました。そのために、交流の場や事務局機能、情報発信を主たる事業目的としています。そういった意味においては、生きがいしごとサポートセンター事業は、まさしく、ミッションをかなえる施策です。

現在、企業代表者を中心とした会員が 165 名いますが、事務局では、それら企業の団塊世代の対応や、就労支援、また、事業のマッチング連携などをネットワークで繋いでゆくことと、コミュニティ・ビジネスを立ち上げたいといった若者や団塊の世代の方々の事業化を、そういった企業との連携や紹介をしながらサポートしています。

平成 19 年 4 月には、厚生労働省の地域若者サポートステーションの事業も受託し、団塊の世代のみならず、NPO 活動やコミュニティ・ビジネスへの若者の生きがいづくりにも取組んでいます。

この事業は、ニートひきこもりのサポートの業務ですが、団塊の世代のセカンドライフのソフトスタートのためにも、役立っています。

広域な播磨西部での出前講座も実施しながら、これらの活動に、更にスキルアップさせながら取組んでゆきます。

センター長紹介

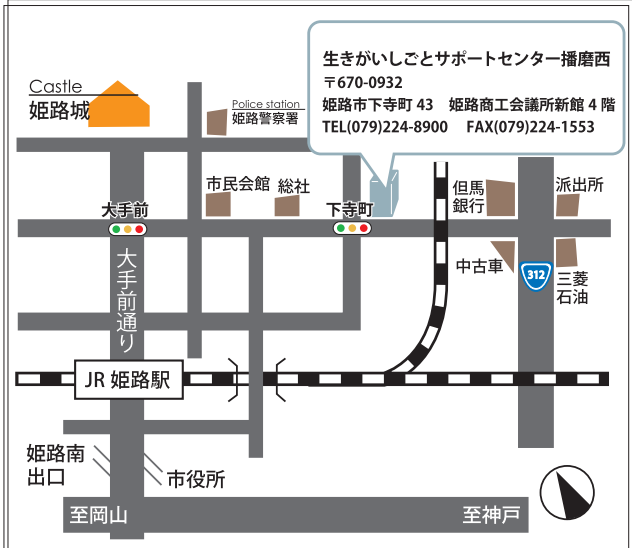
前川裕司 (生きがいしごとサポートセンター播磨西)

昭和 30 年 3 月生まれ。姫路市出身。大阪大学経済学部卒。卒業後家業に従事するが、まもなく大病を患い、生きがいについて探求。その実践として、平成 3 年に生きがいや街づくりを目的とした交流サロン「コムサロン」を発足。地域活動をサポートしながら、活動中。現在、「姫路おでん」も仕掛け中。

生きがいしごとサポートセンター播磨西

〒670-0932
姫路市下寺町 43
姫路商工会議所新館 4 階
TEL：079-224-8900
FAX：079-224-1553
URL：http://www.ikisapo-harima.com/

開所時間
月曜日～金曜日（10時 ～18時）
土曜日 (10 時～ 17 時)
日・祝日はお休みです。



【電車】ＪＲ･山陽電車　『姫路駅』下車　徒歩約15分
【バス】姫路駅前発　市営バス「日の出車庫」行き『商工会議所前』下車すぐ（運賃￥100）
【お車】駐車場…30分無料。1時間まで200円。以降1時間毎に100円増。

第3章
NPO法人の基礎知識

NPOってよく耳にするけど、いったい何!?

耳にすることの増えたNPO。しかし、NPOって何だろう？そう思われている方も少なくないかと思います。そんな疑問と法人設立の流れを、多くのNPO法人設立にかかわってきた生きがいしごとサポートセンター神戸西センター長、小倉譲が解説します。

小倉譲（おぐらゆずる）

生きがいしごとサポートセンター神戸西のセンター長として数々のNPO法人設立に携わる。親切丁寧をモットーに時に「やりすぎ」と言われる姿勢で日々相談に対応している。

① NPO＝民間非営利組織

NPOとは広義に解釈すれば、営利を目的とせず、余剰金（利益）を分配しない民間組織です。NPOという言葉を皆様もよく耳にするようになったと思います。新聞などでは、民間非営利組織として訳される事が多いですが、直訳すると「非営利組織」になります。

Non **P**rofit **O**rganization ➤ **非営利組織**

非　営利　組織

ここでいう「Non-Profit（非営利）」とは、利益を出さないのではなく、収入から活動費を差し引いた利益を構成員に分配しないことを意味しています。

NPOの活動はボランティアによって支えられていることが多いですが、ここで誤解のないようお伝えすると、「利益の非配分＝スタッフは無給である」ではありません。多くのNPOでは有給で働くスタッフもいるように、賃貸料や水道光熱費なども事務所経費としてあげられます。労働の対価として支払われるお給料も経費の一部とされ、利益配分にはならないのです。

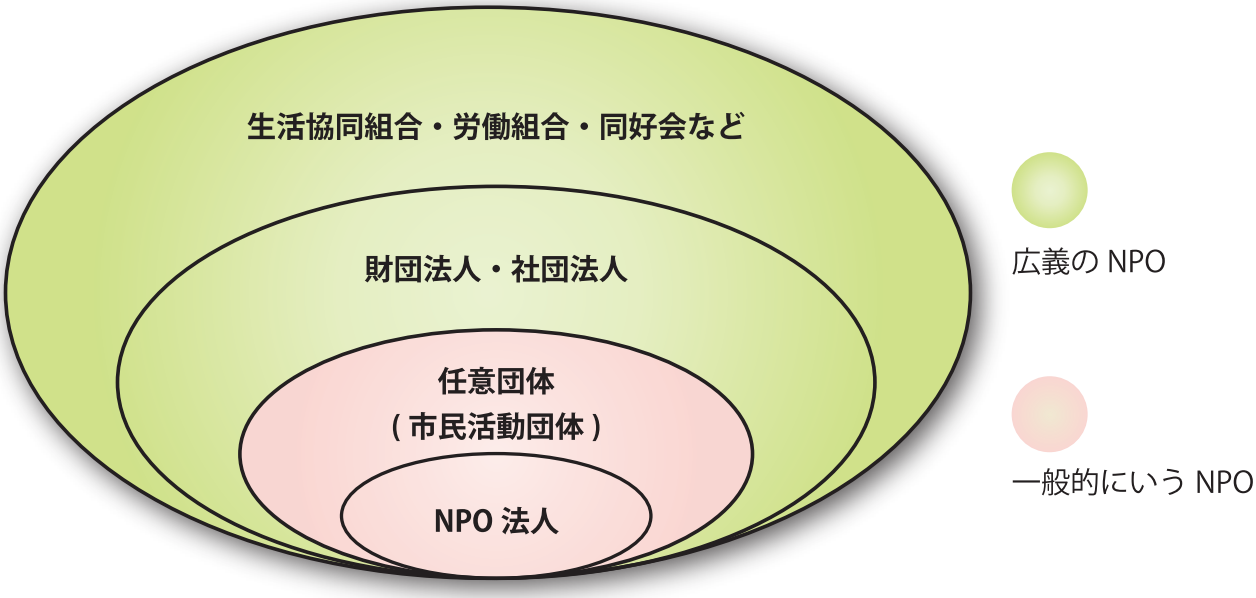
要するに、NPOはたとえ余剰金（収入－経費／人件費含む）が発生しても、その次年度の事業推進に投資して使命実現に向けて活動する組織であるため、これが「非営利組織」といわれる所以です。

利益を得て配当することを目的とする組織である企業に対し、NPOは社会的な使命を達成することを目的にした組織であるといえます。

② NPO の範囲

NPO という言葉の持つ意味は非常に広く、様々な解釈の仕方があると思います。一般的には、県民市民の使命やミッションに基づき自主的な活動をする「市民活動団体」をさすことが多くあります。しかし、NPO という非営利組織を広義で捉えると、社団法人、社会福祉法人、学校法人、生活協同組合なども入ります。

NPO 狭義・広義 (NPO とは)



注：「狭義の NPO」が「広義の NPO」に属しているという意味ではありません。

③ NPO は何してる？

よく NPO をいっしょくたにとらえ、1 つの団体の名称だけと考えている方がおられます。しかし、NPO といってもみんな同じ内容の活動をしているわけではなく、1 つ 1 つの団体がミッションを持ち、独立して活動しているのです。

例えば、近所に独居老人が増え、生活に困っているから生活をサポートしよう！といったミッションを持ち活動している「福祉系 NPO」や、数十年前の町の活気を取り戻そうと、町の再編に取り組む「まちおこし系 NPO」、他には環境を考え、里山保全活動やリサイクルを推進する「環境系 NPO」など、活動は様々です。

困っている人を何とか助けてあげたい。地域社会の様々な問題を解決したいという身近な問題を、情熱や熱意を持って自分たちの手で解決したいと思っている方が集まり、活動をしているのです。

NPO法人の基礎知識
ここが違う!! NPO法人

巷では、NPO 法人＝ボランティアグループということをよく耳にします。NPO 法人なんだから無償でやってもらってあたり前とか、無償でやるべきだとか様々な意見があるようです。しかし昨今、コミュニティ・ビジネスの実施団体の多くは NPO 法人で、事務局機能を持ち、雇用契約を交わした有給スタッフもいるという団体がいくつもあります。その中では当然利益をあげなければ事業を継続していくことは不可能ですし、実際その中で有償でサービスを提供し、収益をあげている NPO 法人もあります。

NPO 法人は利益の追求を制限しているだけであって、ミッションや使命を達成するための経済活動は禁止されていません。

持続した活動を行っていくためには、無償であるボランティアだけでは限界が生じる場合があり、サービスの質を向上させるためには一定の収入が必要だからです。ただし、そこで利益を配当してはいけないという制限が加えられているのが NPO 法人なのです。

そもそも、ボランティアとは自発的に行う奉仕活動であり、報酬を目的としていません。それに対して、NPO 法人とは、非営利の「団体・組織」を指します。ボランティアは個人の労働対価としての報酬を受けませんが、NPO 法人は団体運営のためのお金は稼ぎます。

要するに、NPO 法人は非営利的な活動をするために、ボランティアさんを積極的に活用するのです。

コラム NPO法人になったら

市民活動団体の法人制度としてスタートした NPO 法人制度は、日本の市民社会に定着しつつあります。しかし、「法人格の取得」=「社会的信頼が得られる」ではありません。

NPO 法人は営利目的の団体ではないので、収益が得られても株式配当のように社員に分配することはできません。役員報酬を得られる役員数も全役員の3分の1までに限られています。また、事業費が管理費を上回ることが求められることや、趣旨に賛同する人は誰でもが入会可能であるなど、一定のルールが定められています。

次に、NPO法人は、定款に定められた事業以外は実施できません。この点も任意団体とは違います。そして、NPO法人は、NPO法に定められた事業報告書提出の義務があります。決算に関する書類や役員名簿などをきちんと作成して都道府県などに提出することが求められるのです。提出された報告書類は、誰でも閲覧できるよう公開されます。つまり、NPO法人として活動していくためには、本来の活動をさかんに展開していくだけではなく、会計をはじめとする活動情報を積極的に公開して、非営利性・公益性や、自分たちの活動が目指すものを広く市民に伝えていくことが求められるのです。

こうした活動について広く情報公開していく活動が、社会的信頼を築き上げる基礎となり、行政・企業などとの連携にもつながっていきます。そして何よりも、これらのポイントを含めてよく検討し、グループの皆さんの間に共通理解をつくり上げ、NPO法人のミッションをよく確認することが重要になります。

兵庫県県民政策部
地域協働局参画協働課
課長補佐兼 NPO 法人係長
中村典子

NPO 法人の基礎知識

NPO 法人と他法人との違い

法人形態別特徴一覧

項目＼法人形態	公益法人（社団・財団）	NPO 法人	営利法人（株式会社）
活動目的	公益		私益（儲けるため）
余剰金（利益）の配分	構成員への配分不可・本来事業への使用		株主への配当
法人格取得方法	許可主義	認証主義	準則（届出）主義
資本金・基金	相当額必要	不要	1 円以上
設立費用	不要	不要	最低 17 万円以上（登録手数料）
社員（会員）株主	（社）数人 （財団）1 人でも可	理事：3 名以上 監事：1 名以上	取締役：3 名以上 監査役：1 名以上
課税	税法上の収益事業（※）以外の事業には非課税		全ての事業に課税
情報公開制度	なし	3 年分の事業報告書閲覧 ・事業報告 ・貸借対照表 ・損益計算書 ・役員名簿	貸借対照表のみ公告
ボランティアスタッフ	あり	積極的活用	なし

注：公益法人制度改革により、2008 年 12 月以降、法改正される可能性があります。

NPO 法人と他団体との最も大きな違いは、情報公開制度の有無にあると言えます。NPO 法人は毎事業年度、収支決算書や事業報告書、貸借対照表などを閲覧資料として提出することが義務づけられており、それを誰もが自由に見ることができます。

そのため NPO 法人の運営は「ガラス張りの経営」とも言われています。逆に考えれば、情報を公開することは、信頼を得るための一番の近回りかもしれません。また、もう一つの違いとしては、NPO 法人は設立段階で費用がかからないということです。法人印を作ったり、登記後に登記簿謄本を申請する以外、資本金や登録手数料などは一切かかりません。

NPO法人の基礎知識

法人と個人ではココが違う!!

法律行為の主体が個人から法人へ

契約関係

法人名で各種の契約を結束する事ができ、代表者交代時などに契約自体を締結し直す必要はない。

資産・負債関係

法人名で銀行口座の開設ができ、不動産の所有や登記もでき、個人の財産と区別ができる。

損害賠償関係

法人として損害賠償の対応をする事になり、代表者個人にとっては過度の責任から解放される。

Point

法人化により、法律上の位置付けが明白になり、代表者個人ではなく団体自体が権利・義務の主体となります。

団体の社会的信用が高まる!!

職員の雇用・作業所や事務所の賃貸

職員を雇う場合、広く人材を集めることができ、事務所も借りやすくなる。

寄付金

公益目的であることが明確になり、個人・法人からの寄付金が集めやすくなる。また、税法上の収益事業以外の事業に対して寄付金を受ける時、原則非課税となる。任意団体の場合は、贈与税として寄与者一人当たり 110 万超に対して課税される／（相続税法 66 条 1 項）。

業務の委託や補助金

法人でなければ行政からの委託を受けられない事業がある他、公益目的の明確化などにより、ひょうごボランタリープラザなどの補助金・助成金を受けることができる。

Point

法人化により、法に定められた法人運営や情報公開の実行に伴い、目的が非営利・公益であることが明らかになり、社会的信用が得やすくなります。

しっかりした運営･書類の提出情報公開が必要

法人運営

会計は NPO 法に定められた原則で行うとともに、定款通りに運営しなければならない。

所定書類の提出

毎事業年度終了後、3 ヶ月以内に　①事業報告書　②収支決算書　③財産目録　④貸借対照表　⑤役員名簿　⑥社員名簿を兵庫県担当課に提出しなければならない（NPO 法 28 条・29 条）。

損害賠償関係

前述②の書類のうち、社員名簿以外は所轄庁で閲覧される。

Point

法人化により、今まで自由にできていたことが、営利法人以上に規制されます。

NPO 法人の基礎知識

NPO 法人を立ち上げよう!!

設立の要件

NPO 法人になるためには、9 項目の要件をみたす必要があります。
(1) 特定非営利活動を行うことを目的とすること。特定非営利活動とは、次に揚げる 17 項目に該当する活動であって、かつ、不特定多数の利益の増進に寄与する事を目的とする活動。

活動分野	活動例
❶ **保健、医療又は福祉の増進** を図る活動	訪問介護事業や、高齢者や障がい者の福祉に関わる事業。
❷ **社会教育の推進** を図る活動	フリースクールや生涯学習など。
❸ **まちづくりの推進** を図る活動	商店街と連携したまちづくり、まちおこしなどの活動。
❹ **学術、文化、芸術又はスポーツの振興** を図る活動	スポーツ、楽器演奏、合唱団、伝統の継承、文化交流など。
❺ **環境の保全** を図る活動	里山保全、環境汚染、リサイクルなどの活動。
❻ **災害救援活動**	災害救援、災害予防など
❼ **地域安全活動**	まちのパトロールなど、地域の交通安全や犯罪防止活動。
❽ **人権の擁護又は平和の推進** を図る活動	家庭内暴力からの保護、人権啓発、戦争反対など。
❾ **国際協力の活動**	国際交流、異文化交流、難民救助、食糧援助など。
❿ **男女共同参画社会の形成の促進** を図る活動	性差別への反対、セクシャルハラスメントの防止など。
⓫ **子どもの健全育成** を図る活動	非行防止・不登校・いじめなど子どもを助ける活動。
⓬ **情報化社会の発展** を図る活動	パソコンやインターネットなどを活用した活動。
⓭ **科学技術の振興** を図る活動	環境・医療などの研究を行う場合など。
⓮ **経済活動の活性化** を図る活動	コミュニティ・ビジネス、経営支援など。
⓯ **職業能力の開発又は雇用機会の拡充** を支援する活動	路上生活者や障がい者就職支援や職業訓練など。
⓰ **消費者の保護** を図る活動	悪徳商法や詐欺商法の被害に関する消費者相談など。
⓱ **前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動**	ボランティア活動や市民活動への助成や情報提供サービス、相談などです。

9 項目の要件はコチラ !!

(1) 特定非営利活動を行うことを目的 (上記 17 分野) とすること
(2) 営利を目的としないこと（利益を社員で分配しない）
(3) 宗教活動を主たる目的としないこと（宗教の教義を広め、信者の教化育成しない）
(4) 政治活動を主たる目的としないこと（特定のイデオロギーの推進をしないこと）
(5) 特定の公識者・候補者・政党を推進・指示・反対をする事を目的としないこと
(6) 社員（正会員）が 10 名以上であること
(7) 社員の資格の特喪に関して、不当な条件を付けないこと
(8) 役員報酬を受ける者は役員総数の 3 分の 1 以下であること
(9) 暴力団ではないこと。暴力団またはその構成員等の統制下のある団体ではないこと

NPO法人の基礎知識

NPO法人設立までの流れ

Step1　内容の検討

グランドデザインの構築

同じ志を持った人たちで、立ち上げたいNPO法人の基本的な枠組みを決めていきます。

ミッションの確立

立ち上げる団体のミッション（社会的な使命）を検討します。

コンセプトの設定

団体の独自性を考えると同時に、ミッションを達成するために、どのような事業をするのかも考えます。

Step2　申請準備と申請

発起人会

設立趣旨書・定款・事業計画書（2年度分）・収支予算書（2年度分）などを発起人会で検討します。

設立総会

設立当初の社員（10名以上）が集まり、設立趣旨書・定款・事業計画・収支計画など同意を求め、法人設立の意思決定を行います。

所轄庁に書類を提出

1. 設立認証申請書
2. 定款
3. 役員名簿
4. 就任承諾書及び誓約書のコピー
5. 役員の住所又は居所を証する書面
6. 社員のうち10名以上の名簿
7. 確認書
8. 設立趣旨書
9. 議事録コピー
10. 設立当初及び翌年の事業計画（2年度分）
11. 設立当初及び翌年の収支予算（2年度分）

Point

NPO法人は、要件がそろえば設立できますが、様々な運営管理や事業計画を考える必要があります。

きっちりとした法人運営をするためにも、法人設立の際は、生きがいしごとサポートセンターにご相談下さい。

Step3　縦覧・審査

申請書類を提出 ➤ 補正支持・受理 申請書類の確認 ➤

- 公告 ｜ 兵庫県広報へ掲載
- 縦覧 ｜ 受理日から2ヶ月間
- 審査 ｜ 縦覧期間経過後から2ヶ月間

➤ 受理日から4ヶ月以内

- 認証決定 ➤ 認証決定通知 ➤
- 不認証決定 ➤ 不認証決定通知

➤ 認証書が届いた日から2週間以内に法務局で登記

Step4　法人登記をする

NPO 法人設立登記

設立登記申請に必要な書類、登記申請書・印鑑届出書・設立認証書の写し等を作成。

NPO 法人の設立

設立登記完了をもって正式に特定非営利活動法人として成立。

設立登記完了　届出書類

所轄庁へ提出が必要な書類

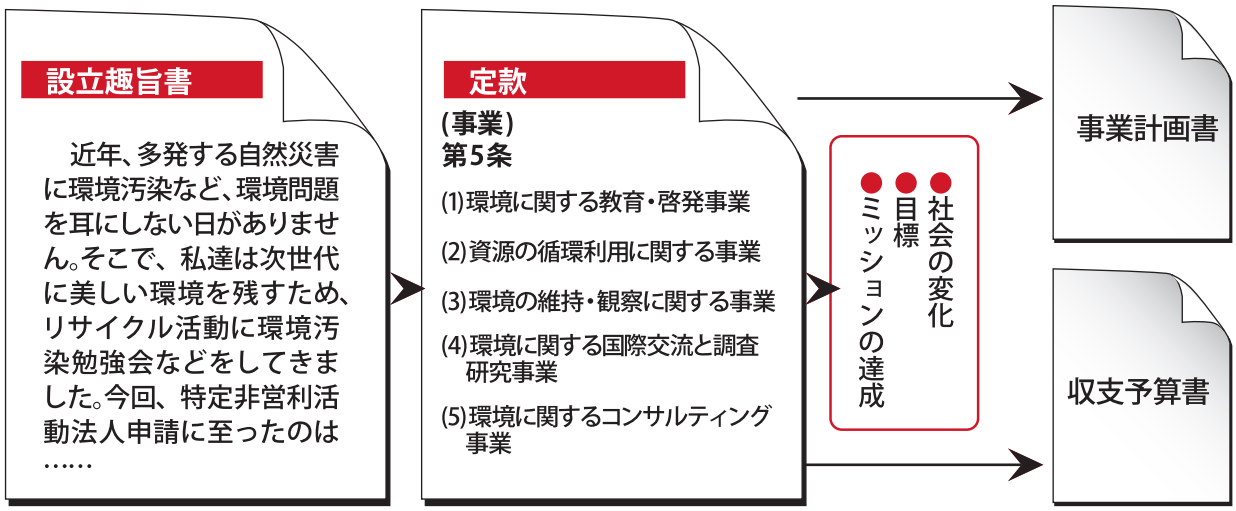
○設立登記完了届出書
○登記事項証明書
○登記事項証明書コピー
○定款
○設立時の財産目録

Point

設立認証決定通知書が届いたら、すぐに登記ができるよう、法人印等を事前に作っておくことをお勧めします。

NPO 法人設立の重要ポイント

特定非営利活動法人設立書類を作成するにあたり、「設立趣旨書」「定款・第 2 条・3 条・4 条・特に 5 条」「事業計画書」「収支予算書」とが整合性がなければいけなく、表裏一体の関係です。逆にこの書類ができれば、7 割方の書類が出来たと言っても過言ではありません。



設立趣旨書は名のごとく趣旨を書きます。大切なのは「起承転結」!!

- **起** 社会の現状や背景・問題
- **承** 法人の社会的使命や今までの活動履歴
- **転** なぜ NPO なのか
- **結** NPO になると、どんな社会貢献ができ、効果があるか

定款とは法人の目的・活動・事業・組織運営について基本的な規則を書面化した最も重要な書類です。また、定款で定められた活動を超えて活動する事が出来ないため、定款第 5 条(事業)は熟考する必要があります。

また、変更にも総会の議決に加え縦覧される為、相当時間がかかります。

事業計画書

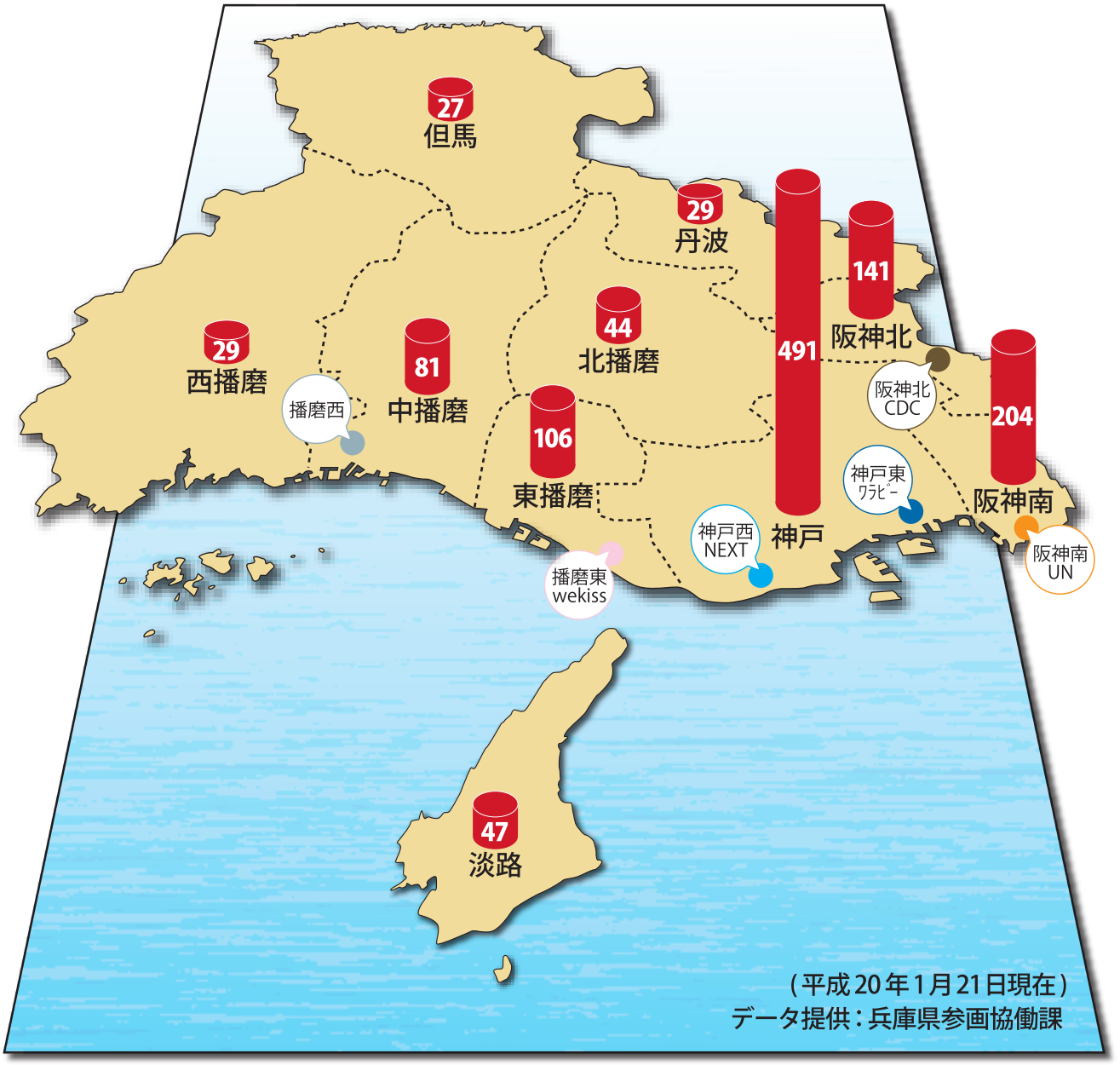
定款に定めた具体的な事業計画であり、定款との整合性・関連性がわかるように記載します。

収支予算書

事業にかかるお金を具体化する重要な書類です。

NPO 法人の地域別事業所数

平成 20 年 1 月現在、兵庫県には 1,199 の NPO 法人が主たる事務所をかまえています。



市町村別 法人数

神戸	神戸市：491						
阪神南	尼崎市：70	西宮市：97	芦屋市：37				
阪神北	伊丹市：32	宝塚市：56	川西市：25	三田市：23	猪名川町：5		
東播磨	明石市：46	稲美町：7	高砂市：11	加古川市：36	播磨町：6		
北播磨	三木市：12	小野市：7	西脇市：7	加西市：5	加東市：6	多可町：7	
中播磨	姫路市：80	神河町：0	市川町：1	福崎町：0			
西播磨	たつの市：10	相生市：3	赤穂市：2	宍粟市：8	太子町：2	上郡町：2	佐用町：2
但馬	豊岡市：15	養父市：3	朝来市：3	香美町：2	新温泉町：4		
丹波	篠山市：12	丹波市：17					
淡路	洲本市：22	南あわじ市：9	淡路市：16				

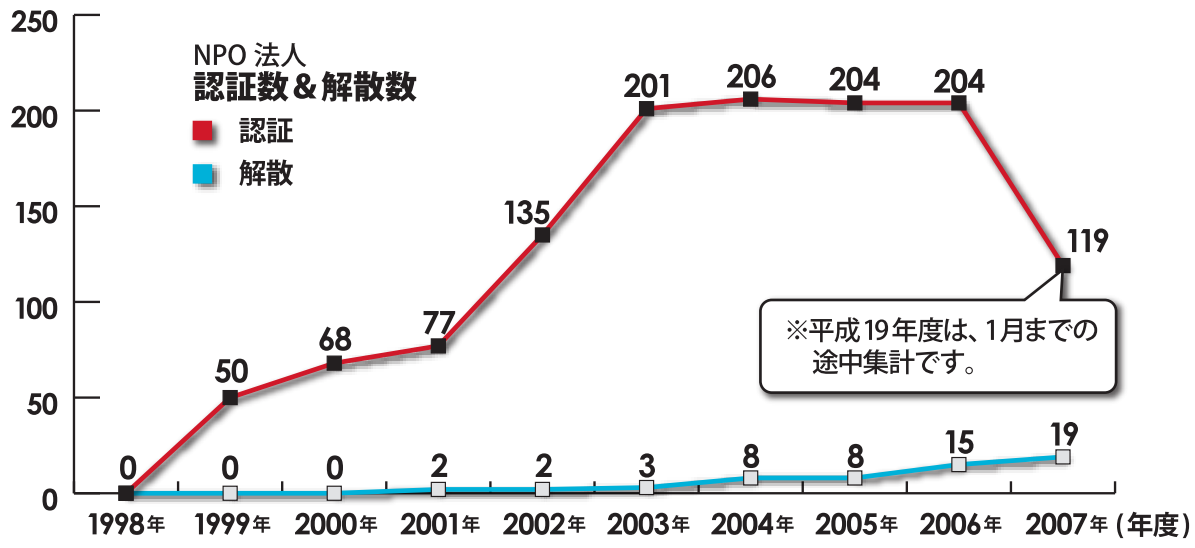
NPO 法人の活動分野

（平成20年1月21日現在）

活動分野	合計	比率	
❶ 保健、医療又は福祉の増進を図る活動	734	61.2%	1
❷ 社会教育の推進を図る活動	536	44.7%	3
❸ まちづくりの推進を図る活動	580	48.4%	2
❹ 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動	357	29.8%	
❺ 環境の保全を図る活動	255	21.3%	
❻ 災害救援活動	44	3.7%	
❼ 地域安全活動	82	6.8%	
❽ 人権の擁護又は平和の推進を図る活動	180	15.0%	
❾ 国際協力の活動	158	13.2%	
❿ 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	80	6.7%	
⓫ 子どもの健全育成を図る活動	464	38.7%	5
⓬ 情報化社会の発展を図る活動	80	6.7%	
⓭ 科学技術の振興を図る活動	31	2.6%	
⓮ 経済活動の活性化を図る活動	104	8.7%	
⓯ 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動	185	15.4%	
⓰ 消費者の保護を図る活動	44	3.7%	
⓱ 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動	503	42.0%	4

注：1つの法人が複数の活動分野を行う場合があるため、合計は100%にならない。

NPO 法人の認証数と解散数の推移



第4章

「いきがい.cc」と私

老後準備元年 －コスモスさん－

「いきがい .cc」とは、生きがいしごとサポートセンター神戸西 NEXT が運営する、50 代からの地域住民交流サイトです。

新しい年が明けた。今年、私は還暦を迎える。まだ心は 30 代なのに。そして、子育ても卒業する。基本的な親の仕事は終ったのだから、これから残りの人生を自分自身のことに真剣に取り組むつもりである。30 代、40 代、そして 50 代でも多くの人に助けられて人生を送ってきた。私はそのことを決して忘れない。

幸い今の私は、一応は安定した環境にある。だから心身がまだ老いてない間は、世間とか社会の役に立つなど、大上段に振りかざさなくても（それは私の器ではないので）、欲張らず、ほんの自分の周囲の人だけでいいから、困っていたり、悩んでいる人のほんの少しの支えになりたいと真剣に思うようになった。

こんな私でも求めてくれる人は存在する。

もう人付き合いに、インスタントも、その場凌ぎも、上辺だけもしないつもりだ。これからのかけがえのない人生を充実させるために。

まさに、それは心身が老いたとき、私は、肉親ではなく、愛と心の通いあった人たちと凌ぎたいとの覚悟でもある。心身、頭脳ともに、自助努力はもちろんのこととして、その実践にもとりかかるつもりである。

心が「つもり」だと、その「実践」が眼に止まる。

昨年、新聞紙上である記事が眼に止まった。「いきがい .cc」である。同年代というのは思うことも同じようである。

主に団塊世代に呼び掛ける地域限定、ネット主体の交流組織ということが私の関心を引き付けた。

正直、過去に複数の中・高年サイトに席を置いたことがある。私は文章を書くことが好きで苦にならない。それがネット時代の到来で、まさに水を得た魚になった。しかし、それらのネット組織は、いわゆる「帯に短し、たすきに長し」で、次第に私はより自分のニーズに合ったものを正確に自覚するようになった。それらは完全に私の欲求を満たすものではあり得なかったのである。

会員内のみ公表と思っていたら、自動的に世間に開けっ広げであった。

全国組織であるということは、これから老いる私にとって、いかにネット上で親しくなっても、フェイス・ツー・フェイスには限界があり、むなしい。

私は、書くことによる交流が好きとはいっても、人と人の付き合いはフェイス・ツー・フェイスが重要不可欠と思っている。これは、特に未来が限定され、老いて、何かと助け合いの実践の可能性を視野に入れた場合、致命的である。よって、上記 2 点の不満は、今後の私にとってマイナスでしかないと判断するようになった。そこに「いきがい .cc」の登場である。これこそ、私が真に望んだものであった。

私は、もう他のサイトには決別を告げ、この「いきがい .cc」一本に決心を固めた。しかし、人間関係というのはどのような関係であろうと、あせりは禁物である。また、保身、損得勘定も禁物である。

重要かつ不可欠なことは、「楽しい」「役に立つ」（自分の利益という実質的なことではない）「心のよりどころ」ではないかと思っている。その上に、自然発生的に、相互の支え合いが、心理的なことであっても、構築できればそれに越したことはないと私は思っている。

一人でも多くの人が、豊かな人生のために、私たちと交流してくれることを望んでやまない。

（コスモス）

いきがい.cc との出会い　－akada さん－

私が生きがい.cc と出会ったのは全くヒョンなきっかけだった。勤務していた会社の社友会幹事会で、guriguri さんが SNS の紹介をしてくれた。当時はこんなサイトもあるんだ、くらいの認識しかなかった。

ところが、guriguri さんからこの SNS に登録の勧誘があり、電話で手順を聞きながら応じた。参加してみると、会員は殆どがハンドルネームで誰が誰だか判らぬ、おまけに写真はペットや風景と、およそご本人と特定できる材料はない。個人が特定できねば交流が不安で、容易に輪は広がらぬのでは、と思ったものである。

さらに guriguri さんから、日記を投稿してみては？との勧めがあり、1 週～ 2 週に 1 回くらい投稿してみた。投稿記事にコメントが入り、ソレに対してまたコメントするという風に少しずつ幅が広がりだしてきた。

そして、あるときブレイクした！昨年、4 月 1 日のオフ会、須磨寺公園の花見である。やはり guriguri さんに誘われて、野次馬的に参加したものだった。適当に座っていた周辺の方と話が弾み、互いに「お友だち」交流を約束した。

また、スタッフから、「あしあと」からも「お友だち」登録をとのコメントがあり、よく私のページを訪れている方に「お友だち」要請をしてみた。驚くことに全て OK だった。

「お友だち」登録以降は、一気に「お友だちのブログや日記」が画面一杯に飛び込んでくる。ビックリしたものだ。お友だちが増えて、それぞれの投稿にコメントを入れようと努力するのだが、変なコメントを入れたら失礼になるし、傷つけることになってもいけないと躊躇していた。

ところが、ある日記に出会ったことがきっかけだった。2007 年 7 月 22 日、コスモスさんの「美 3 人」だ。

ソフィーさん、マーガレットさんとの 3 人のトークバトルにはビックリ。お三方の日記から、互いが顔見知りと思っていたのに、実は一度も会ったことがなく、今回やっと会えたと。互いに顔が分からないのに「ここまでやれるノ？」ってものすごく気が楽になった。

また、昨秋、ソフィーさん宅でのオフ会に参加、新たなお友だちが増えたのは当然だが、この SNS への想いや投稿姿勢などを話し合い、ますます気楽になった。その話し合いの中で、無理やりコメントすることはない、「自分の分からぬ世界」に反応する必要はない、自分の意見が述べられるものだけに気楽にコメントすることを教えられ、その後は、自分が楽しめるものへとシフトした。

投稿内容やコメントを家内に話すと興味を持って、私も読ませてくれと言い出した。

時には「こんなことを投稿して！」とか「もっと私のことを書いて！」「私が誉められるような内容にして！」とか、「最近、あの方は？」なんて聞いてくる。

結構、家庭の潤滑油になっているようで……さらに、面白いものは、娘たちに連絡して、読むように勧めたりしている。

最後にコミュニティについて。私は 8 つ参加している。とてもコメントが出来ないような「高レベル」のものもあるが、私のお好み（？）は自分で料理はしないが、「いきがい.cc 版 dancyu」。おいしそうなものが沢山あり、そのレシピを家内にコピーで渡す。受けた家内もトライしている。

別居している 3 人の娘も（未婚だが）、この dancyu のレシピを時折参考にしているようだ。

面白い情報、思わぬ出会いを得るためには、思い切って日記投稿をし、いろんな方からコメントをいただき、また、オフ会に参加して多くの方と出会えば、その輪がドンドン広がり、SNS も大いに楽しめるのではないかと実感している。

(akada)

いきがい.cc
行くとこがある。やることがある。会う人がいる。

生きがいしごとサポートセンター神戸西 NEXT が運営する地域 SNS

セカンドライフの仲間が見つかる!!

登録者も兵庫県内の方ばかり！地域 SNS だから交流が広がりやすい !!

1. まずは、検索！ いきがい.cc 検索 http://www.ikigai.cc
2. 「事務局にメール」から「いきがい .cc へ登録希望」とメールを下さい！
3. 事務局から「招待状メール」が届きますので、登録画面へお進み下さい！
4. 登録が完了したら、まずはプロフィールの登録から !!

ご登録で不明な点がありましたらお気軽にご連絡下さい !!　078-731-2251
いきがい .cc に関する記事は P38－P39 をチェック !!

Non Profit Organization
特定非営利活動法人 しゃらく
生きがいしごとサポートセンター神戸西 NEXT

神戸市須磨区須磨寺町２丁目２−４
開所時間：火曜日〜土曜日（10 時〜 18 時）
（日、月、祝日はお休みです）
Tel：078-731-2251　Fax：078-735-0164
E-mail：next@ikigai.cc
URL　：http://www.ikigai.cc

平成 20 年 4 月以降、開所時間等が変更される可能性があります。事前にお電話やメールにてご確認ください。

山陽須磨寺駅から徒歩 1 分
JR 須磨駅から徒歩 10 分

Non Profit Organization 特定非営利活動法人 しゃらく × 生きがいしごとサポートセンター神戸西 NEXT

生きがいしごとサポートセンター神戸西 NEXT は、NPO 法人しゃらくが兵庫県の補助を受けて実施しております。